

教養科目（令和6年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要																																																																								
教養教育科目	総合	60010	総合教養講座	2	30	1・2	後期																																																																											
		65000	別掲 教養ゼミ	②	30	1	前期	(別掲)			授業コード別掲																																																																							
		60031	キャリア実践講座	1	15	1	集中	後藤 和也			後期開講（2～3月）																																																																							
		60040	60041 ライフ・キャリアデザイン (木曜Ⅴ限)	}	2	30	1・2	前期	後藤 和也			日本史指定・社会情報指定																																																																						
		60040	60042 " (金曜Ⅴ限)																																																																															
		60050	60051 現代社会とキャリア形成 (火曜Ⅴ限)	}	2	30	1・2	後期	後藤 和也			英語英文・日本史指定																																																																						
		60050	60052 " (木曜Ⅴ限)																																																																															
	主題別科目	60110	60111 心理学 (火曜Ⅱ限)	}	2	30	1・2	前期	石崎 毅			○ 教職必修 栄養大との合同授業(単位互換による) 栄養大との合同授業(単位互換による) 前期開講（8～9月） 前期開講（8～9月）																																																																						
		60110	60112 " (火曜Ⅲ限)																																																																															
		60130	日本国憲法	2	30	1・2	後期	堀田 学																																																																										
		60140	国際関係論	2	30	1・2	後期	堀田 学																																																																										
		60150	現代社会論	2	30	1・2	集中	磯崎 匡																																																																										
		60160	ジェンダー論	2	30	1・2	集中																																																																											
		60190	健康と栄養	1	15	1・2	前期	金谷 由希																																																																										
60200	芸術学	2	30	1・2	前期	石澤 靖典																																																																												
共通基礎科目	情報リテラシー	60210	60211 情報処理演習Ⅰ (水曜Ⅱ限)	}	2	30	1・2	前期	山田 忍		② 英語英文指定 国語国文指定 日本史・社会情報指定 日本史指定 国語国文指定 国語国文・日本史指定 国語国文指定 英語英文指定 日本史・社会情報指定 「情報処理演習Ⅱ」を受講していることが望ましい 「簿記会計演習」又は「応用情報処理演習Ⅱ」を受講していることが望ましい																																																																							
		60210	60212 " (木曜Ⅰ限)																																																																															
		60210	60213 " (水曜Ⅲ限)	}	2	30	1・2	後期	山田 忍																																																																									
		60210	60214 " (水曜Ⅳ限)																																																																															
		60210	60215 " (金曜Ⅰ限)	}	2	30	1・2	前期	西川 友子																																																																									
		60220	60221 情報処理演習Ⅱ (水曜Ⅰ限)																																																																															
		60220	60223 " (木曜Ⅰ限)	}	2	30	1・2	前期	伊豆田義人																																																																									
		60220	60224 " (水曜Ⅲ限)																																																																															
		60220	60225 " (火曜Ⅰ限)	}	2	30	1・2	前期	伊豆田義人																																																																									
		60260	応用情報処理演習Ⅰ																																																																															
	60270	応用情報処理演習Ⅱ	2	30	1・2	前期	伊豆田義人																																																																											
	60280	応用情報処理演習Ⅲ	2	30	1・2	前期	伊豆田義人																																																																											
	外国語(英語英文学科以外)	60310	英語一	}	2	30	1・2	前期	三枝 和彦		② 国語国文学科 日本史学科 社会情報学科 英語一～九の数字は 難易度を示すものではない 初修者は「フランス語一」或いは「中国語一」を履修することが望ましい 英語英文・日本史指定 国語国文・社会情報指定																																																																							
		60320	英語二									}	2	30	1・2	後期	北山 長貴																																																																	
60330		英語三	}															2	30	1・2	前期	三枝 和彦																																																												
60340		英語四																					}	2	30	1・2	後期	渡邊真由美																																																						
60350		英語五																											}	2	30	1・2	後期	小林 亜希																																																
60360		英語六																																	}	2	30	1・2	前期	阿部 隆夫																																										
60370		英語七																																							}	2	30	1・2	後期	太田 裕子																																				
60380		英語八																																													}	2	30	1・2	前期	太田 裕子																														
60390		英語九																																																			}	2	30	1・2	後期	三枝 和彦																								
60400		英会話A																																																									}	2	30	1・2	前期	今井 コレット																		
60410		英会話B																																																															}	2	30	1・2	前期	今井 コレット												
60420		英会話C																																																																					}	2	30	1・2	後期	今井 コレット						
60430		英会話D																																																																											}	2	30	1・2	後期	今井 コレット
60451		異文化理解実習																																																																																
60460	60461 フランス語一 (月曜Ⅲ限)	}		2	30	1・2	前期	寺本 弘子																																																																										
60460	60462 " (月曜Ⅳ限)																																																																																	
60470	60471 フランス語二 (月曜Ⅱ限)	}	2	30	1・2	後期	寺本 弘子																																																																											
60470	60472 " (月曜Ⅳ限)																																																																																	
60480	フランス語三	}	2	30	1・2	前期	寺本 弘子																																																																											
60490	フランス語四																																																																																	
60500	60501 中国語一 (月曜Ⅲ限)	}	2	30	1・2	前期	齋藤 知広																																																																											
60500	60502 " (月曜Ⅳ限)																																																																																	
60500	60503 " (月曜Ⅱ限)	}	2	30	1・2	後期	寺本 弘子																																																																											
60500	60504 " (月曜Ⅲ限)																																																																																	
60510	60511 中国語二 (月曜Ⅲ限)	}	2	30	1・2	後期	齋藤 知広																																																																											
60510	60512 " (月曜Ⅳ限)																																																																																	
60510	60513 " (月曜Ⅱ限)	}	2	30	1・2	前期	齋藤 知広																																																																											
60510	60514 " (月曜Ⅲ限)																																																																																	
60520	中国語三	}	2	30	1・2	前期	齋藤 知広																																																																											
60530	中国語四																																																																																	

教養科目（令和6年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要		
共通基礎科目	外国語（英語英文学科）	60460	60461	フランス語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	寺本 弘子		〔 英語英文学科 〕	
		60460	60462	〃（月曜Ⅳ限）								
		60470	60471	フランス語二（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	後期	寺本 弘子			
		60470	60472	〃（月曜Ⅳ限）								
		60480		フランス語三	2	30	1・2	前期	寺本 弘子			
		60490		フランス語四	2	30	1・2	後期	寺本 弘子			
		60500	60501	中国語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	齋藤 知広			初修者は「フランス語一」或いは「中国語一」を履修することが望ましい
		60500	60502	〃（月曜Ⅳ限）								
		60500	60503	〃（月曜Ⅱ限）								
		60510	60511	中国語二（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	後期	齋藤 知広			
		60510	60512	〃（月曜Ⅳ限）								
		60510	60513	〃（月曜Ⅱ限）								
		60510	60514	〃（月曜Ⅲ限）					李 通江			
		60520		中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広			
		60530		中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広			
60451		異文化理解実習	1	30	1・2	集中	英文専任教員					
保健体育	60610		スポーツ実技一	1	30	1・2	前期	村井 友樹	②	個人種目スポーツ		
	60620		スポーツ実技二									
	60630		スポーツ実技三									
	60640		スポーツ実技四									
	60650		スポーツ実技五									
	60660		スポーツ実技六									
	60670		スポーツ実技七									
	60680		スポーツ実技八									
	60690		スポーツ実技九									
	60700		スポーツ実技十									
	60710		健康理論 ※1								1	15
60720		スポーツ文化論 ※1	2	30	1・2	後期	村井 友樹					

(注)・「○数字」は必修単位、「□○数字」は選択必修単位

- ・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる
- ・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす
- ・※1「健康理論」及び「スポーツ文化論」は、卒業要件のスポーツ実技の単位に含まれないので注意すること

教養ゼミ 授業コード

学科	科目コード	授業コード	担当教員
国語国文	65000	65011	小峰 克之
	65000	65012	山本 淳
	65000	65013	佐々木紀一
	65000	65014	村瀬 桃子
	65000	65016	大沼太兵衛
	65000	65017	後藤 和也
	65000	65018	高橋 永行
	65000	65019	今井 瞳良
	英語英文	65000	65021
65000		65022	阿部 隆夫
65000		65024	渡邊真由美
65000		65025	畑田 秀将
65000		65026	小林 亜希
65000		65027	タガアコリ・マーニ

学科	科目コード	授業コード	担当教員
日本史	65000	65031	桑林 賢治
	65000	65032	小林 文雄
	65000	65033	吉田 歆
	65000	65034	布施 賢治
	65000	65035	原 淳一郎
	65000	65036	山田彩起子
社会情報	65000	65041	石崎 毅
	65000	65042	亀ヶ谷雅彦
	65000	65043	伊豆田義人
	65000	65044	小池 隆太
	65000	65045	山田 忍
	65000	65046	西川 友子
	65000	65047	村井 友樹
	65000	65048	中川 恵
	65000	65049	高浜 快斗

※指定学年（1学年）以外の者が「教養ゼミ」の再履修を要する場合は、別途指示する

教養科目（令和5年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要																																																		
教養教育科目	総合	60010	総合教養講座	2	30	1・2	後期	小林 文雄		後期開講（2～3月）																																																		
			教養ゼミ	②	30	1	前期	—																																																				
			キャリア実践講座	1	15	1	集中	後藤 和也																																																				
		60040	60041	ライフ・キャリアデザイン （木曜V限）	2	30	1・2	前期	後藤 和也			日本史・社会情報指定																																																
		60040	60042	” （金曜V限）																																																								
		60050	60051	現代社会とキャリア形成 （火曜V限）	2	30	1・2	後期	後藤 和也			英語英文・日本史指定																																																
	60050	60052	” （木曜V限）																																																									
	主題別科目	60110	60111	心理学（火曜II限）	2	30	1・2	前期	石崎 毅	○	教職必修 栄養大との合同授業（単位互換による） 栄養大との合同授業（単位互換による） 前期開講（8～9月） 前期開講（8～9月）																																																	
		60110	60112	”（火曜III限）																																																								
		60130		日本国憲法	2	30	1・2	後期	堀田 学																																																			
		60140		国際関係論	2	30	1・2	後期	堀田 学																																																			
		60150		現代社会論	2	30	1・2	集中	磯崎 匡																																																			
		60160		ジェンダー論	2	30	1・2	集中	高橋 知花																																																			
		60190		健康と栄養	1	15	1・2	前期	金谷 由希																																																			
60200			芸術学	2	30	1・2	前期	石澤 靖典																																																				
情報リテラシー	60210	60211	情報処理演習Ⅰ（水曜II限）	2	30	1・2	前期	山田 忍	②	英語英文指定																																																		
	60210	60212	”（木曜I限）								2	30	1・2	後期	山田 忍	②	英語英文指定																																											
	60210	60213	”（水曜III限）															2	30	1・2	前期	伊豆田義人	英語英文指定																																					
	60210	60214	”（水曜IV限）																					2	30	1・2	前期	伊豆田義人	英語英文指定																															
	60210	60215	”（金曜I限）																											2	30	1・2	前期	伊豆田義人	英語英文指定																									
	60220	60221	情報処理演習Ⅱ（水曜I限）	2	30	1・2	前期	伊豆田義人	英語英文指定																																																			
	60220	60223	”（木曜I限）							2	30	1・2	前期	伊豆田義人	英語英文指定																																													
	60220	60224	”（水曜III限）													2	30	1・2	前期	伊豆田義人	英語英文指定																																							
	60220	60225	”（火曜I限）																			2	30	1・2	前期	伊豆田義人	英語英文指定																																	
	60260		応用情報処理演習Ⅰ																									2	30	1・2	前期	西川 友子	「情報処理演習Ⅱ」を受講していることが望ましい																											
	60270		応用情報処理演習Ⅱ	2	30	1・2	前期	伊豆田義人																																																				
	60280		応用情報処理演習Ⅲ	2	30	1・2	前期	伊豆田義人	「簿記会計演習」又は「応用情報処理演習Ⅱ」を受講していることが望ましい																																																			
	共通基礎科目	外国語（英語英文学科以外）	60310	英語一	2	30	1・2	前期	三枝 和彦	②	国語国文学科 日本史学科 社会情報学科																																																	
60320			英語二	2								30	1・2	後期	北山 長貴	②	英語一～九の数字は 難易度を示すものではない																																											
60330			英語三															2	30	1・2	前期	三枝 和彦	②	英語一～九の数字は 難易度を示すものではない																																				
60340			英語四																						2	30	1・2	後期	渡邊真由美	②	英語一～九の数字は 難易度を示すものではない																													
60350			英語五																													2	30	1・2	後期	小林 亜希	②	英語一～九の数字は 難易度を示すものではない																						
60360			英語六																																				2	30	1・2	前期	阿部 隆夫	②	英語一～九の数字は 難易度を示すものではない															
60370			英語七																																											2	30	1・2	後期	太田 裕子	②	英語一～九の数字は 難易度を示すものではない								
60380			英語八																																																		2	30	1・2	前期	太田 裕子	②	英語一～九の数字は 難易度を示すものではない	
60390			英語九																																																									2
60400			英会話A		2	30	1・2	前期	今井 コレット	②	英語一～九の数字は 難易度を示すものではない																																																	
60410			英会話B	2								30	1・2	前期	今井 コレット	②	英語一～九の数字は 難易度を示すものではない																																											
60420			英会話C															2	30	1・2	後期	今井 コレット	②	英語一～九の数字は 難易度を示すものではない																																				
60430			英会話D																						2	30	1・2	後期	今井 コレット	②	英語一～九の数字は 難易度を示すものではない																													
			異文化理解実習																													2	60	1・2	集中	英文専任教員	②	本年度開講せず																						
60460			60461																																				フランス語一（月曜III限）	2	30	1・2	前期	寺本 弘子	②															
60460			60462																																				”（月曜IV限）																					
60470			60471																																				フランス語二（月曜II限）																					
60470			60472																																				”（月曜IV限）																					
60480					フランス語三	2	30	1・2	前期	寺本 弘子	英語英文・日本史指定																																																	
60490			フランス語四	2	30	1・2	後期	寺本 弘子																																																				
60500		60501	中国語一（月曜III限）	2	30	1・2	前期	齋藤 知広	②	英語英文・日本史指定																																																		
60500		60502	”（月曜IV限）																																																									
60500		60503	”（月曜II限）																																																									
60500	60504	”（月曜III限）																																																										
60510	60511	中国語二（月曜III限）	2	30	1・2	後期	齋藤 知広	②	国語国文・社会情報指定																																																			
60510	60512	”（月曜IV限）																																																										
60510	60513	”（月曜II限）																																																										
60510	60514	”（月曜III限）																																																										
60520		中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広	②																																																				
60530		中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広																																																					

教養科目（令和5年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要		
共通基礎科目	60460	60461	フランス語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	寺本 弘子		〔 英語英文学科 〕		
	60460	60462	〃（月曜Ⅳ限）									
	60470	60471	フランス語二（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	後期	寺本 弘子				
	60470	60472	〃（月曜Ⅳ限）									
	60480		フランス語三	2	30	1・2	前期	寺本 弘子				
	60490		フランス語四	2	30	1・2	後期	寺本 弘子				
	60500	60501	中国語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	齋藤 知広			初修者は「フランス語一」或いは「中国語一」を履修することが望ましい	
	60500	60502	〃（月曜Ⅳ限）									
	60500	60503	〃（月曜Ⅱ限）									
	60510	60511	中国語二（月曜Ⅲ限）									
	60510	60512	〃（月曜Ⅳ限）	2	30	1・2	後期	齋藤 知広				
	60510	60513	〃（月曜Ⅱ限）									
	60510	60514	〃（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	齋藤 知広				
	60520		中国語三									
	60530		中国語四									
			異文化理解実習	2	60	1・2	集中	英文専任教員				本年度開講せず
	保健体育	60610		スポーツ実技一	1	30	1・2	前期				村井 友樹
60620			スポーツ実技二	個人種目スポーツ								
60630			スポーツ実技三	団体種目スポーツ								
60640			スポーツ実技四	団体種目スポーツ								
60650			スポーツ実技五	レクリエーション・スポーツ								
60660			スポーツ実技六	レクリエーション・スポーツ								
60670			スポーツ実技七	フィットネス								
60680			スポーツ実技八	フィットネス								
60690			スポーツ実技九	前期開講（8～9月）								
60700			スポーツ実技十	冬季開講予定								
60710			健康理論 ※1	1	15	1・2	後期	加藤 守匡				
60720		スポーツ文化論 ※1	2	30	1・2	後期	村井 友樹					

(注)・「○数字」は必修単位、「}○数字」は選択必修単位

- ・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる
- ・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす
- ・※1「健康理論」及び「スポーツ文化論」は、卒業要件のスポーツ実技の単位に含まれないので注意すること

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
小林 文雄			
		高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有 授業形態：講義
授業のテーマ及び到達目標	受講生のキャリア形成の一助として本講座を開講する。 多彩な講師による実践的かつ専門性に基づいた話を幅広く聞くことによって、教養を高め、物の見方、捉え方をより豊かなものにし、将来の進路はもとより、人としての行い方や生き甲斐等について深く考えることを目標とする。 この講座の受講により、様々な角度から、社会の潮流や諸現象を観察しようとする態度が身につく。		
授業計画	別途掲示		
授業概要	学外の講師により、各回完結型の講義を行う。講義内容は各回担当者によって多岐にわたるが、その道の専門家としての貴重な見解が聴取できる。また、この科目は地域貢献事業の一環として、広く県民の方々にも公開される。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。		
テキスト	必要に応じて、資料等を配布する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	各界の現場で活躍する方々を講師として、毎回設定します。 毎回欠かさずに講話を聴くことがたいへん重要な講座です。 実社会での生の話が伺える貴重な機会ですので、なるべく多くの学生の履修を希望します。		
評価方法	課題レポート30%、授業への参加度70%。 レポート課題は、12月中に掲示または印刷物配布をもってお知らせいたします。 （レポートには各回講義に関わるテーマを選択してもらいますが、単なる感想文ではなく、受講生なりの思考を経たものを求めます。）		
参考文献	各回の講師とテーマは、後期開始直前に本学ホームページに掲載します。		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席の取り扱いは厳正に行います（「公欠」以外の個別事情は一切考慮しません）</li> <li>・高評価を得るためにはレポートテーマの選択も重要になります</li> </ul>		

講義科目名称：教養ゼミ（65000）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
本学専任教員			
			授業形態：演習
授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	－		
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。</p> <p>全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」であり、具体的な授業計画は担当教員が決定する。なお、担当教員ごとのテーマは【教養ゼミのテーマ&lt;科目コード&gt;】のページを参照されたい。</p> <p>なお、全15回のうち、2回は全学科共通の合同教養ゼミが開講される予定であるが、これについては教務連絡に注意してもらいたい。</p>		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	担当教員が指示する。		
テキスト	開講時に担当教員が指示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート、授業への参加度、授業形態などで評価する。</li> <li>具体的な評価方法は担当教員が決定する。</li> </ul>		
参考文献			
備考			

## 【教養ゼミ（科目コード 65000）のテーマ】

〔 担当教員＜授業コード＞  
・テーマ、メッセージ 〕

### 国語国文学科

小峰 克之 <65011>

- ・夏目漱石の「三四郎」を読んでいきます。話は主人公の大学入学から始まりますので、みなさんにとっても何か参考になる部分があるのではないかと思います。

山本 淳 <65012>

- ・市立米沢図書館蔵『蝦夷恵曾谷日記』を原態で読んでみましょう。連綿体で表記された資料(史料)に馴れる(読める)ことになるでしょう。

佐々木紀一 <65013>

- ・くずし字入門 平仮名の草書体を学び、古典の仮名の美を堪能しましょう。毎回、室町時代の短冊、古筆切を教材とします。足利義政、本阿弥光悦などなど

村瀬 桃子 <65014>

- ・LGBTQ や性暴力の問題について知り、興味をもったことについてパワーポイントで発表する。

大沼太兵衛 <65016>

- ・「図書館」がテーマ・舞台・モチーフになっている作品を題材として、各自が選んだ作品について発表・ディスカッションします。

後藤 和也 <65017>

- ・「女性のキャリア」に関する新書をメンバーで輪読し、ディスカッションをしましょう。

高橋 永行 <65018>

- ・ことば関連のテーマ(辞典・方言・景観・ゲームなど)をいくつか選び、「調べる」「集める」「考える」「整理する」ことをグループワークで体験しよう。

今井 瞳良 <65019>

- ・様々な教材から「大学で学ぶ」ということを参加者全員で話し合い、考えるレッスンを行います。

### 英語英文学科

北山 長貴 <65021>

- ・ミュージカル映画観賞。古いけれどスタンダードなアメリカ映画で通で英語表現と文化を学びます。

阿部 隆夫 <65022>

- ・参加生各自の将来の計画を構想し実現するための情報提供をする。主題例として、国際協力事業への参加、留学(例、正規、語学、インターンシップ)、就職(例、航空会社、公務員、外資系企業、新聞社)、進学、資格取得を扱う。そのほか外国語学習の新しいアプローチを取り扱う。

渡邊真由美 <65024>

- ・辞書の引き方を学習します。エドワード・ゴリー作のABC Book『ギャシュリーコラムのちびっ子たち』(柴田元幸訳、河出書房新社)を一回の授業で、2・3文ずつ辞書を引ながら訳していきます。授業の最後に、各自の全文訳を提出してもらいます。

畑田 秀将 <65025>

- ・社会文化と生命倫理に関するノンフィクション映像を鑑賞し、その背景を調べて意見交換します。

**小林 亜希 <65026>**

- ・英語圏の文化について考察する「カルチュラル・スタディーズ」の入門ゼミです。主に、イギリスとアメリカの映画を題材に、「文化」とは何かを考えてみたいと思います。

**タヴァコーリ, マーニ <65027>**

- ・The theme of this seminar is learning English and teaching English to children through games, songs and multimedia activities.

**日本史学科**

**桑林 賢治 <65031>**

- ・今と昔の地図、そして街歩きを通じて、米沢市や山形県の地理について考えましょう。

**小林 文雄 <65032>**

- ・現代まで受け継がれてきたさまざまな芸能・音楽・楽器と触れあって、いろいろな楽しみ方をさがしましょう。

**吉田 歆 <65033>**

- ・文化財を調べてみよう。

**布施 賢治 <65034>**

- ・史料の講読や映像を通じて日本近現代史について考える。

**原 淳一郎 <65035>**

- ・山形の食文化を学び、みなさんの故郷との共通点や相違点を考えましょう。そして若干の試食。

**山田彩起子 <65036>**

- ・日本の世界文化遺産から日本史を学びましょう。

**社会情報学科**

**石崎 毅 <65041>**

- ・「SPI」を楽しみながら解くことを通して、論理的に考えるための方略について学びましょう。

**亀ヶ谷雅彦 <65042>**

- ・ハングルを勉強して、韓国の K-POP、トロット、食文化、映画などを調べます。

**伊豆田義人 <65043>**

- ・デジタルコンテンツの制作。

**小池 隆太 <65044>**

- ・アナログゲームの構造分析と制作。ボードゲームやカードゲームを分析・制作します。

**山田 忍 <65045>**

- ・「身近な経済学」をテーマに、私たちの生活に関わる経済活動の仕組みについて学びます。

**西川 友子 <65046>**

- ・米沢市西部地区の神社を調べる。

**村井 友樹 <65047>**

- ・地域のスポーツについて考えましょう。スポーツ推進計画などを調べ、検討します。

**中川 恵 <65048>**

- ・自分で調べる技術を習得する。山形学のトピックを足掛かりに地域の特徴を知る。

**高浜 快斗 <65049>**

- ・消費者の心理について検討します。今まで、そしてこれからもおこなうであろう購買行動に着目して、なぜ買おうと思うのか、なぜ買ったのか、などの日常に隠れているメカニズムについて知りましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1	1	選択
担当教員			
後藤 和也			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	「就職活動」を題材に、学校から職業生活への移行について考えましょう。就職活動に真剣かつ前向きに取り組むことは、初期キャリア形成上重要です。当授業では「社会人として活躍する」前段階として、就職活動（初期キャリア形成）を理解し、必要な知識やスキルの習得を目指します。到達目標は「自分の経験や強みなどについて文章や言葉で説明できる」ことです。自分自身の経験を振り返り、それをエントリーシートや履歴書などの文章で表現できることや、面接試験で言語的に表現できることを目指します。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 就職活動の準備（スケジュール等の把握） 第3回 自身の特性や興味・関心の理解（自己分析・自己理解） 第4回 産業・職業の理解（企業研究・仕事理解） 第5回 論理的な文書作成（採用時書類作成のための日本語表現や文法等について） 第6回 コミュニケーション能力と人物試験（面接試験・集団討論） 第7回 近年の就職活動の動向・合同企業説明会や採用ナビサイトの利用（外部ゲストの特別講義） 第8回 授業後の行動計画の作成と授業のまとめ
授業概要	就職活動に必要な知識の習得やスキルの向上を図ります。テーマに応じて外部ゲスト（人材業界）もお招きして、多角的な視点から指導します。 ※日時など受講に関する詳細は開講前に掲示します。
実務経験及び授業の内容	人事・採用・人材育成等の実務経験を持つ教員が、その知見を活かし学生におけるキャリアを支援するための授業を行う。
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。
テキスト	後藤和也「教養としての就職活動」三恵社1260円＋税（※2024年11月頃刊行予定） ISBN：978-4-86693-888-2 さわらび会購買部で購入可能です
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	多くの皆さんが直面する「就職活動」をテーマに、キャリア形成について考える授業です。進路として民間企業への就職や公務員への就職を志望する人だけではなく、4年制大学への編入学希望者もぜひ受講してください。（編入学後、間をあげずに就職活動が始まります）。具体的には以下のような皆さんに特に受講をお勧めします。 <ul style="list-style-type: none"><li>・就職活動等全般に不安がある。</li><li>・就職活動等について復習したい。</li><li>・志望先に自分をどのようにPRすればよいかわからない。</li><li>・編入後を見据えて必要な情報収集を行いたい。</li><li>・採用担当者（面接官）がどのような基準で学生を評価するのかを知りたい。</li><li>・面接試験やグループディスカッションが苦手である。</li></ul>
評価方法	授業中の発表・発言内容等（50%）、授業中に指示する課題（50%）で評価します。
参考文献	必要に応じてコピー等を配布します。
備考	・事前にテキストを購入し、授業前までに通読すること ・外部ゲストのスケジュールの都合、感染症や天候の状況等により、授業の実施方法や内容等に変更が生じる場合があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
後藤 和也			
		高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有 授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	今後のキャリア形成に有用な諸能力への理解を深める授業です。就職活動や4年制大学への編入学試験では、「コミュニケーション能力」と称される汎用的なスキル（ジェネリック・スキル）が求められる傾向にあります。授業をとおして、ジェネリック・スキルについて学び、考えを深めましょう。当授業では「どのような経験や活動が自身のジェネリック・スキルの伸長に関係しているかを言葉や文章で説明できる」ことを到達目標とします。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 自分のジェネリック・スキルの現状を把握しよう</p> <p>第3回 他者と交流を図る力（コミュニケーション能力）</p> <p>第4回 他者とのコミュニケーションを取ろう（話す・聴くコミュニケーション）</p> <p>第5回 やる気や自信を保持する力（自己効力・モチベーション）</p> <p>第6回 チームを支える力（チーム・リーダーシップ）</p> <p>第7回 物事を決断する力（意思決定）</p> <p>第8回 偶然のチャンスを活かす力（キャリアにおける偶然性）</p> <p>第9回 人間関係を広げ、成長する力（メンター・発達のネットワーク）</p> <p>第10回 自分の向き・不向きや特徴を把握する力（適性・キャリアアンカー）</p> <p>第11回 目標を立てる力（目標設定）</p> <p>第12回 夢を実現する力（PDCAサイクル）</p> <p>第13回 自分自身を俯瞰する力（適性検査により自己理解を深めよう）</p> <p>第14回 前期におけるジェネリック・スキルの変化を確認しよう</p> <p>第15回 授業全体のまとめ</p>
授業概要	社会的・職業的自立に向けて有用なジェネリックスキルを育成するため、内省する時間や他者の意見を聴く時間を頻度高く設けます。授業内の活動に取り組むことで、いわゆるコミュニケーション力を育成しましょう。入学したばかりの1年生も、進路決定を迫られている2年生にとっても有用な内容となるはずです。
実務経験及び授業の内容	人事・採用・人材育成等の実務経験を持つ教員が、その知見を活かし学生におけるキャリアを支援するための授業を行う。
時間外学習	毎回の授業で取り上げる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。
テキスト	テキストは指定せず、適宜コピーを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	本授業は、直接的に就職活動や編入学試験を指導するものではありません。ただし、授業中のグループワークなどを通して話す力や聴く力が鍛えられるので、結果的に就職活動や編入学試験に役立つ情報やスキルは得られると考えます。積極的に参加いただくことを希望します。
評価方法	授業への貢献度（議論の参加態度やグループ内での役割、授業中の発言・質疑の内容、授業後アンケートの振り返り内容の質等）50%、最終レポート等の記載内容等50%により評価する。
参考文献	
備考	各種感染症等の状況により、授業の実施方法に変更が生じる可能性があります。また、ゲストスピーカーとの日程調整等により、実施内容や実施回を変更する場合があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
後藤 和也			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	皆さんのキャリアと社会との関係について考える授業です。具体的には、キャリアに関連する理論、自身の経験を振り返る（リフレクション）ための技法並びにワーク・ルールなどについて扱います。社会で活躍中のゲストスピーカーのお話を聞く機会も設ける予定です。到達目標は「これまでの経験を振り返りながら、自身のキャリア形成について文章で表現できる」ことです。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（私たちとキャリア）</p> <p>第2回 「偶然のチャンス」を創り出す方法とは</p> <p>第3回 「一皮むけた経験」を振り返り、成長の糧にする</p> <p>第4回 キャリア・ドリフト（流れに身を任せながら将来のキャリアを考える）</p> <p>第5回 「経験」と「リフレクション（振り返り）」</p> <p>第6回 「やりたいこと探し」と「やってみること（体験）」を考える</p> <p>第7回 事例で学ぶジェネリック・スキル①（旅行・観光業界で求められる力）</p> <p>第8回 事例で学ぶジェネリック・スキル②（中小企業で求められる力）</p> <p>第9回 活躍する社会人の話を聞こう（社会人講話）</p> <p>第10回 実社会で求められる力を考える（社会人講話のふりかえり）</p> <p>第11回 ワーク・ルールのあらまし（労働関連法の概要）</p> <p>第12回 働きすぎと心身の健康（労働基準法、労働安全衛生法等）</p> <p>第13回 男女とも働きやすい職場環境とは（男女雇用機会均等法、育児介護休業法等）</p> <p>第14回 労働組合、ユニオンとわたしたちの働く権利（労働組合法）</p> <p>第15回 授業全体のまとめ</p>
授業概要	「実社会で求められる知識や能力」について、自身の経験を振り返り、考えを深める機会を多く設けます。結果として、就職活動で求められる「自己分析（自己理解）」の練習になるでしょう。「ブラック企業から自分を守るための方法」「女性が活躍できる企業とは」「女性労働の歴史」など、皆さんにとって関心の高いであろうトピックも扱う予定です。適宜動画教材を用いるなど、理解が深まるような工夫をしたいと思います。
実務経験及び授業の内容	人事・採用・人材育成等の実務経験を持つ教員が、その知見を活かし学生におけるキャリアを支援するための授業を行う。
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方や考え方を整理すること。
テキスト	（一財）全国大学実務教育協会編「実践キャリア考 体験からキャリアを考える」実教出版 定価：1,430円（本体：1,300円） ISBN 978-4-407-33226-1 さわらび会購買部で購入可能です。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	本授業は直接的に就職活動や編入学試験を指導するものではありません。皆さんが社会人となってからキャリアを形成していくために必要な知識や能力を考えます。ただし、必要に応じて担当教員の人事・採用の実務経験から得た知見を紹介したり、特定分野の実務家をゲストスピーカーとしてお招きしたりしますので、結果的に就職活動等に役立つ情報やスキルは得られるでしょう。
評価方法	毎授業後のアクションペーパーにおける振り返りの内容50%、最終レポートの内容50%により評価する
参考文献	
備考	感染症や天候等の状況により、授業の実施方法や内容等に変更が生じる可能性があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
石崎 毅			
		聴講生開講科目※	※一般の男女が聴講する場合有 授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ 心理学への関心を高め、理解を深める。</p> <p>到達目標 発達心理学及び臨床心理学、パーソナリティ心理学、認知心理学等の、基礎的かつ本質的な内容を学ぶことにより、自尊感情を高めつつ、自己や他者をより深く理解できる力を育む。</p>
授業計画	<p>第1回 心理学とは何か（心理学の様々な領域と心理学の役割）</p> <p>第2回 発達心理学（青年期までに獲得したいこと）</p> <p>第3回 臨床心理学・発達心理学（愛着形成の重要性）</p> <p>第4回 発達心理学・学習心理学（学力や人生に影響を与える決定的な要素）</p> <p>第5回 パーソナリティ心理学（パーソナリティ心理学の概要と自分らしさの指標）</p> <p>第6回 パーソナリティ心理学（自己分析の留意点）</p> <p>第7回 パーソナリティ心理学（自分を変化させ成長させる条件）</p> <p>第8回 発達心理学・臨床心理学・パーソナリティ心理学（知能のとらえ方と知能検査）</p> <p>第9回 臨床心理学（様々な発達障害とその傾向）</p> <p>第10回 臨床心理学（大人の発達障害とその対処）</p> <p>第11回 認知心理学・学習心理学（2つの学習基礎理論）</p> <p>第12回 認知心理学（記憶の方法）</p> <p>第13回 認知心理学（効果的な学習法）</p> <p>第14回 パーソナリティ心理学（自尊感情とパーソナルプロジェクト）</p> <p>第15回 臨床心理学（心理アセスメント）と総まとめ</p>
授業概要	本講義では発達心理学、臨床心理学、パーソナリティ心理学、認知心理学の4つを中心に授業展開し、各授業で代表的な知見を紹介します。その知見と日常生活を照らし合わせ、記述することによって自分自身を振り返る時間をつくっていきます。さらに、みなさんが私見を述べたり、議論したりし、他者の感じ方や考え方に触れることを通して、知見に対する理解を深めていきます。
実務経験及び授業の内容	学校心理士SVとしての実務経験を生かして授業を行います。
時間外学習	興味を持った内容についてさらに学習して、質問をしてください。
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	心理学の専門的な知見を身近な生活場面と関連付けて講義し、興味と関心を持って受講できるように工夫したいと思います。この講義を通して私もみなさんも同じように自分自身を見つめ直す時間にできればと考えています。
評価方法	授業・ワークシート（関心意欲態度・思考）70% レポート（知識定着・思考）30%
参考文献	「DSM-4」「DSM-5」（アメリカ精神医学会著 日本精神神経学会訳）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職必修
担当教員			
堀田 学			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 日本国憲法は、人権と統治に分かれます。人権では、「表現の自由」や「社会権」などの問題に関連し、統治では国会や内閣、裁判所がその対象となります。憲法は遠い存在のように思えますが、実は身近な事象に関連するものでもあります。この講義では、日本国憲法の全体像をとらえ、自ら考え、答えを導けるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉 1. 日本国憲法の構造を理解する。 2. 憲法の規定に則って統治機構が動いていることを理解する。 3. 人権概念を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 憲法の基礎</p> <p>第2回 参政権</p> <p>第3回 国会</p> <p>第4回 内閣</p> <p>第5回 裁判所</p> <p>第6回 象徴天皇制</p> <p>第7回 平和主義</p> <p>第8回 人権総論 1（人権の理念と歴史）</p> <p>第9回 人権総論 2（人権の享有主体性）</p> <p>第10回 信教の自由と政教分離</p> <p>第11回 表現の自由</p> <p>第12回 経済的自由</p> <p>第13回 人身の自由</p> <p>第14回 社会権</p> <p>第15回 幸福追求権</p>
授業概要	日本国憲法は、最高法規であるため様々な法律にもその理念が生きています。日本国憲法は、身近な生活にもその理念は活かされています。この授業では、日本国憲法の意義と課題について考えていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布したレジュメ等を授業が終わってから見直し、知識の定着を図ること。また、新聞やニュースを毎日チェックし、社会の動きに敏感になること。
テキスト	駒村圭吾編『プレステップ憲法(第3版)』弘文堂、2021年 1980円 ISBN 9784335001536
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分の手を動かし書くことで理解も深まりますので、板書も多くしたいと思います。また、日々刻々と変化する社会の動きを把握するためにも、新聞やニュースに積極的に触れるようにしてください。
評価方法	期末試験（90%）、DVD視聴の感想・意見（10%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
堀田 学			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 この講義では、政治・経済・社会など多面的な側面から世界で起こっている様々な事象を理解し、考察できるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉 1. 国際関係論の理論を理解する。 2. グローバルな課題を理解する。 3. 国際問題を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 国際関係論とは何か</p> <p>第2回 20世紀の国際関係1（2つの世界大戦と国際関係）</p> <p>第3回 20世紀の国際関係2（冷戦時代の国際関係）</p> <p>第4回 20世紀の国際関係3（ポスト冷戦時代の国際関係）</p> <p>第5回 現代の国際関係（9・11以降の国際関係）</p> <p>第6回 国際関係理論1（リアリズム）</p> <p>第7回 国際関係理論2（リベラリズム）</p> <p>第8回 国際機関</p> <p>第9回 欧州統合</p> <p>第10回 民族紛争・宗教対立1（中東）</p> <p>第11回 民族紛争・宗教対立2（中東）</p> <p>第12回 民族紛争・宗教対立3（ヨーロッパ）</p> <p>第13回 安全保障1（軍事）</p> <p>第14回 安全保障2（食糧・環境）</p> <p>第15回 これからの国際関係</p>
授業概要	現代の国際社会は、グローバル化が進行する一方で、反グローバル化の動きやポピュリズムの台頭なども世界各地で起こっています。この授業では多角的な視座から世界を見ることができるよう知識を得ることを目標とします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	新聞やニュースを毎日チェックし、国際問題に関する知識を深め、関心を持ってください。
テキスト	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ニュースや新聞などの国際面を読んで、刻々と変わる国際情勢の把握に努めてください。
評価方法	期末試験（70％）、DVD視聴の感想・意見（30％）
参考文献	佐渡友哲・信夫隆司編『国際関係論（第3版）』弘文堂、2018年 村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ（第3版）』有斐閣、2023年 小原雅博『大学4年間の国際政治学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA、2021年
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択
担当教員			
磯崎 匡			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1, 現代社会のありようを理解し, 分析することができる。 2, 分析した結果をもとに考察し自分の言葉で説明することができる。
授業計画	<p>第1回 現代社会とはいかなる時代か？</p> <p>第2回 理論と学説</p> <p>第3回 相互行為</p> <p>第4回 組織と集団</p> <p>第5回 レポート作成</p> <p>第6回 家族</p> <p>第7回 ジェンダーとセクシュアリティ</p> <p>第8回 教育</p> <p>第9回 産業と労働</p> <p>第10回 レポート作成</p> <p>第11回 文化</p> <p>第12回 メディアとコミュニケーション</p> <p>第13回 地域と都市</p> <p>第14回 災害と環境</p> <p>第15回 レポート作成</p>
授業概要	私たちが生きるこの現代社会について、様々な観点から議論してそのありようを描き出す。前半ではミクロからマクロへと展開して、現代社会の基本的な捉え方を解説する。後半では具体的な社会現象を分析するとどうなるかを考えていく。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	様々な社会現象について常にアンテナを張るように、日々のニュースや新聞を見聞きし、自分の問題意識を醸成する。
テキスト	指定テキストはなし。毎時間資料を配付する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	本授業では、出欠確認の代わりに毎日小レポートを課す。成績はその小レポートと別途指定する最終レポートを合算して評価する。
評価方法	小レポート40%、最終レポート60%
参考文献	授業中適宜指定する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択
担当教員			
高橋 知花			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	本授業では、ジェンダーという視点から、日常生活における様々な出来事や問題を捉えます。到達目標は以下の通りです。 ・ジェンダーという視点、ジェンダー論の系譜を理解すること。 ・様々な社会問題の構造をジェンダーの視点から理解すること。 ・日常生活における身近な出来事や問題をジェンダーと結び付けて考えること。
授業計画	第1回 ジェンダーという視点① 第2回 ジェンダーという視点② 第3回 生物学的性差とジェンダー 第4回 「女らしさ」 第5回 「男らしさ」 第6回 性的マイノリティ 第7回 性差別とジェンダー 第8回 教育とジェンダー① 第9回 教育とジェンダー② 第10回 労働とジェンダー① 第11回 労働とジェンダー② 第12回 家族とジェンダー① 第13回 家族とジェンダー② 第14回 結婚・出産とジェンダー① 第15回 結婚・出産とジェンダー②
授業概要	社会学的な観点から、ジェンダーに関する概念やジェンダー論の系譜を学んだ後、日常生活における身近なトピックをいくつか取り上げ、ジェンダーの考えを深めます。適宜グループディスカッションを取り入れ、受講生の考えを共有しながら授業を進めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	各授業で取り上げた内容のうち気になったものについて調べてみてください。
テキスト	なし。毎回配布する資料を元に授業を進めます。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	私たちが生活する中には、様々なジェンダー的なものの見方が溢れており、そのことによって悩みや生きづらさを抱えている人もいます。授業を通じて、自分の経験と授業の内容とを結びつけてみたり、自発的に様々な問題の背景について調べてみたりしましょう。
評価方法	期末レポート100%
参考文献	『はじめてのジェンダー論』有斐閣、『ジェンダー入門』朝日新聞出版 その他については授業内で紹介します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択
担当教員			
金谷 由希			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 「健康」の概念と、健康を維持増進するための「栄養」の重要性を理解する。 2. 現在及び将来の実生活において、健康の維持増進に有用な食生活の実践方法を習得する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・健康と栄養について学ぶ意義 授業の進め方や評価方法について説明する。健康とは何か、健康づくりの三要素の一つである栄養とは何か、それらを学ぶことでどのように実生活に活かすことができるかを学ぶ。</p> <p>第2回 生活習慣病と栄養（生活習慣病の概念、食塩と高血圧） 生活習慣病とは何か。私たちの健康と食塩の関係について学ぶ。</p> <p>第3回 生活習慣病と栄養（肥満問題） 肥満大国であるアメリカを例に、肥満について学ぶ。</p> <p>第4回 生活習慣病と栄養(酒) どんなお酒をどのくらい、どのように飲むべきか学ぶ。</p> <p>第5回 地中海食 よく耳にする地中海食とは何か、なぜ健康食と言われるのかを学ぶ。</p> <p>第6回 健康的な食事 野菜、卵、食塩、全粒穀物等を例に、健康的な食事とは何かを考える。</p> <p>第7回 ビタミン ビタミンの歴史と欠乏症について学ぶ。</p> <p>第8回 栄養健康情報の受けとめ方 飛び交う栄養健康情報に惑わされないために、情報の受けとめ方について考える。</p>
授業概要	栄養や食事に関するこれまでの先行研究を紹介する。そのうえで、健康と栄養の基礎やその関係を学ぶ。具体的には、栄養の過不足により生じる健康障害、特に生活習慣病等の疾病と食、食の歴史と食文化、健康の維持増進のために有用な食生活の実際等について学ぶ。
実務経験及び授業の内容	障がい者支援施設における管理栄養士としての実務経験があり、この経験を生かして栄養に関する講義を行う。
時間外学習	日頃から、健康や食・栄養に関する情報を、図書や新聞で収集しながら、授業で学んだことを実生活に活かす方策を考え、整理しておくこと。
テキスト	テキスト：使用しない。 必要な資料は、授業中に配付する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	私たちの体は食べた物でできている。食べることの大切さを知り、それを自身の生活に取り入れられるような授業を展開していきたい。
評価方法	レポート100%
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
石澤 靖典			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	美術作品の見方や分析方法を学びます。美術が社会や歴史、文学をはじめとする他の芸術形式とどのような関係にあるかを理解し、作品に対して学問的にアプローチするための手法を身につけます。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 美術の歴史（古代からルネサンスまで）</p> <p>第3回 美術の歴史（バロックからロココまで）</p> <p>第4回 美術の歴史（19世紀の美術）</p> <p>第5回 美術の歴史（20世紀の美術）</p> <p>第6回 芸術の方法論（美術と文学）</p> <p>第7回 芸術の方法論（花と庭園の図像学1）</p> <p>第8回 芸術の方法論（花と庭園の図像学2）</p> <p>第9回 芸術の方法論（図像解釈学）</p> <p>第10回 芸術の方法論（芸術と心理学）</p> <p>第11回 芸術の方法論（芸術と社会）</p> <p>第12回 美術作品の分析（バロック美術）</p> <p>第13回 美術作品の分析（近代美術）</p> <p>第14回 美術作品の分析（現代美術）</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	前半ではおもに西洋の美術作品を例に挙げながら、様式論や図像学、心理学的アプローチなどの方法論を解説し、後半では作品分析を実践するための具体例を提示します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	美術展覧会や関連図書を通じ、日頃から芸術に対する興味・関心を持つこと。
テキスト	とくに教科書は指定しません。参考書については随時授業中に紹介します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業の内容について関心を引くテーマがあれば、自分なりに参考書を読むなどして、さらに知見を深めるとよいでしょう。
評価方法	筆記試験（60％）と授業への参加度（40％）により評価します。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
山田 忍			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>「情報処理演習 I」では、学生生活や将来の社会人として実務に携わる際に必須とされるコンピュータの活用に必要な基本的操作の習熟を目的とする。具体的な到達目標は、次の通りである。①Windows PCの基本操作ができる。②Microsoft Wordを使用し、文書作成ができる。③Microsoft PowerPointを使用し、プレゼンテーションができる。④Microsoft Excelを使用し、基礎的なデータ処理ができる。</p>		
授業計画	第1回	ガイダンス、Windows PC の基本操作	
	第2回	キーボードの基本、アプリケーションソフトウェアの起動	
	第3回	文字入力、ファイルの保存・編集、電子メールの書き方と注意点	
	第4回	ファイル・フォルダ管理、クラウドの利用	
	第5回	(Word) 文字入力基本操作、書式設定 基礎編(ページ設定・フォント設定等)	
	第6回	(Word) 表、オートシェイプ、表・図・写真の追加	
	第7回	(Word) 書式設定 応用編(段落設定・ヘッダー・フッター・箇条書き等)	
	第8回	まとめと応用 (小テスト①)	
	第9回	(PowerPoint) プレゼンテーションとは、PowerPoint の基本操作	
	第10回	(PowerPoint) スライドの作成、スライドの組み立てと提示	
	第11回	(Excel) Excel とは、基本的な入力操作	
	第12回	(Excel) 数式と基本的な関数の利用	
	第13回	(Excel) 表の作成、グラフの利用	
	第14回	Office その他の機能の紹介	
	第15回	まとめと応用 (小テスト②)	
授業概要	本授業では講義・解説に加え、実技・演習を行いながら、Windows PCの操作、インターネット利用時のマナーとルール、Microsoft Officeによる文書作成とレポート作成の知識と技術、スライド作成、データ処理の基礎を学ぶ。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	知識と技術を定着するための復習に必要な時間を十分確保すること。		
テキスト	資料を適宜配布する。		
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	学期の前半では、まずコンピュータに触れ、操作に慣れてもらうための時間を多く用意しています。コンピュータの操作に苦手意識がある人も心配には及びません。それぞれのアプリケーションの基本的な操作を少しずつ積み重ねていくことで、Microsoft Officeの基礎的な知識と技術を身に着けることができます。		
評価方法	「小テスト①」 (30%) および「小テスト②」 (30%)、授業内課題 (40%)、合計：100%で評価する。		

参考文献	
備考	USBメモリを持参すること

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
小池 隆太			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	主としてワープロソフトの基本的操作を習得します。授業の後半でプレゼンテーション用にパワーポイントの基本的操作を習得します。具体的には日商PC検定試験の文書作成3級、ならびにプレゼンテーション3級に合格できるレベルを目標とします。単なる文書作成だけにとどまらず、業務の中で自分なりの工夫が求められるような局面に対応できるスキルの獲得を到達目標とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 パソコンとメールソフトの基本操作</p> <p>第3回 タイピング、日本語入力、ファイル操作</p> <p>第4回 ワープロソフトの基本操作</p> <p>第5回 レイアウトと書式設定(1) (文字の修飾など)</p> <p>第6回 レイアウトと書式設定(2) (罫線など)</p> <p>第7回 表の作成(1) (基本)</p> <p>第8回 表の作成(2) (応用)</p> <p>第9回 レイアウトと書式設定(3) (拡張書式設定)</p> <p>第10回 ビジネス文書(1) (社内文書)</p> <p>第11回 ビジネス文書(2) (社外文書)</p> <p>第12回 プレゼンテーションスライドの制作(1) (テーマ設定とアウトライン)</p> <p>第13回 プレゼンテーションスライドの制作(2) (基本操作)</p> <p>第14回 プレゼンテーションスライドの制作(3) (アニメーション効果)</p> <p>第15回 総合課題</p>
授業概要	授業では毎回学習テーマを設定し、まずチュートリアルによるソフトの機能説明とともに操作を練習した後、対応する課題演習を行い、基本的操作を習得できるようにします。
実務経験及び授業の内容	第一種情報処理技術者（旧通商産業省）の国家資格を有し、プログラマ/システムエンジニアとしての実務経験があります。その経験を反映したシステムの解説を行います。
時間外学習	授業で解説した内容に対応する課題を次回までに提出してもらいます。空き時間などを活用して作業することを求めます。
テキスト	資料を適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「コンピュータは苦手」という方でも定式化されたやり方で文書作成を行うことで、ビジネス文書やプレゼンスライドを作成することは困難ではありません。気軽に取り組めるようになりましょう。
評価方法	授業内課題（80%）、期末課題（20%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
石崎 毅			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ワープロソフトのワードの基本操作を習得するとともに、正しくて伝わりやすい文書作成上の留意点を学ぶことを通して、会社勤務や起業したときに通用する社会的に認められる文書作成ができる力を育む。具体的な水準は、日商PC検定3級レベルとする。		
授業計画	第1回	ガイダンス (情報リテラシーと評価の方法)	メール文書の作成と送信
	第2回	社内文書の作成 (社内連絡書)	
	第3回	社内文書の作成 (社内提案書)	
	第4回	社外文書の作成 (社外連絡書)	
	第5回	仕事を想定した文書の作成 (社内連絡書・社外連絡書・社外メール文書)	
	第6回	ビジネスでよく使う日本語文法の基本 図解の利用方法	ここまでの知識の確認
	第7回	文書管理の基本知識 図解の利用	ビジネス文書作成の留意点
	第8回	ビジネス文書作成の留意点確認	表のあるビジネス文書の作成 (基本)
	第9回	図形のあるビジネス文書の作成 (基本)	表のあるビジネス文書の作成 (応用)
	第10回	図形のあるビジネス文書の作成 (応用)	図表のあるビジネス文書の留意点
	第11回	演習	
	第12回	パワーポイントを使ったプレゼンテーションスライドの留意点	
	第13回	パワーポイントを使ったプレゼンテーションスライドの作成	
	第14回	パワーポイントを使ったプレゼンテーションスライドの作成と吟味	
	第15回	総合課題	
授業概要	内容説明と演習を効果的に配分して課題解決力を高めていきます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	学習した操作を繰り返し復習してください。		
テキスト	必要に応じて資料を配布します。		
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	正しい文書表現や適切な図表を使ってビジネス文章を作成できることは、丁寧な文字で文章を書くことと同じように今後の社会生活で役立ちます。情報リテラシーを少しずつ高めていきましょう。		
評価方法	授業の出席と授業内課題 (70%) 期末課題 (30%)		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
中川 恵			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>文書作成の基礎的な手法を習得し、学生生活の場面に応じて適切な文書を作成する。 Office365の諸機能を使って「会議」（画面共有や動画通信）参加やデータの共有を実践する。</p> <p>*日商PC検定(文書作成)Basic～3級程度の難易度を想定しています。</p>
授業計画	<p>第1回 目標と方針の共有／パソコンの基本動作確認</p> <p>第2回 目標と方針の共有(再)／Office365の基本機能確認</p> <p>第3回 ビジネス文書の基本解説／課題解説</p> <p>第4回 ビジネス文書のライティング技術解説／課題解説</p> <p>第5回 電子メールのライティング技術解説／課題解説／ウェブ面談(1)</p> <p>第6回 ビジネス図解の基本解説／課題解説／ウェブ面談(2)</p> <p>第7回 ビジネス文書の管理解説／課題解説／ウェブ面談(3)</p> <p>第8回 課題解説／ウェブ面談(4)</p> <p>第9回 大学の講義で求められるPCスキルの解説／課題解説 /ウェブ面談(5)</p> <p>第10回 Power Pointの基本動作確認／ウェブ面談(6)</p> <p>第11回 Excelの基本動作確認／ウェブ面談(7)</p> <p>第12回 ウェブ面談(8)</p> <p>第13回 ウェブ面談(9)</p> <p>第14回 ウェブ面談(10)</p> <p>第15回 Power Point、Excel諸機能の解説</p>
授業概要	<p>・本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題や会議機能を活用し、当該到達目標に即した技術を習得します</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>・授業時間中におこなうのは主に課題に関する全体への解説とオンライン面談による個別の進捗確認です。課題については、授業時間では足りなければ空き時間などに作業をしてもらうことになります。</p>
テキスト	なし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>・日商PC検定3級は、「指示に従い、ビジネス文書の雛形や既存文書を用いて、正確かつ迅速にビジネス文書を作成することができる」状態を目指します。該当の難易度がどの程度であるかを確認し、ご自身の目標にそぐわないと感じる場合は他の科目の受講を検討してください。</p> <p>・社会情報学科助手と講師による進捗確認を希望する場合は該当の教室から参加してください。Teamsの会議機能を使って遠隔から講義へ参加することも可能です。</p>
評価方法	課題：100%
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
董彦文			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ワープロソフトのワードとプレゼンテーションソフトのパワーポイントの基本操作を習得するとともに、ビジネス文書を作成するための基本要領と留意点を学びます。日商PC検定試験3級に合格するレベルを到達目標とします。		
授業計画	第1回	ガイダンス パソコンとメールソフトの基本操作	
	第2回	日本語入力、ファイル操作 ワープロソフトの基本操作と文字列の編集	
	第3回	文書の書式・体裁を整える操作 文字修飾・文字強調	
	第4回	ビジネス文書（社内・社外向け）の基本構成 箇条書き、記述記号の使い方	
	第5回	表の作成とレイアウト設定	
	第6回	表の書式設定とレイアウト設定、複合表の使い方	
	第7回	ビジネス文書（社内・社外文書）の種類と雛形 テンプレートの使い方、スタイルの定義	
	第8回	図解の基本 図の作成（1）：基本図形の利用方法	
	第9回	図の作成（2）：図形の書式設定	
	第10回	図の作成（3）：図形のレイアウト設定	
	第11回	図表のあるビジネス文書の留意点と練習	
	第12回	プレゼンテーションスライドの制作(1)：テーマ設定とテキストの追加・編集	
	第13回	プレゼンテーションスライドの制作(2)：図表の追加と書式設定	
	第14回	プレゼンテーションスライドの制作(3)：アニメーション効果 発表ノートと配布資料の作成	
	第15回	総合課題	
授業概要	毎回、学習テーマを設定し、操作方法を説明しながら一緒に操作練習をしたあと、学習テーマに沿った課題をこなすことで基本的操作を習得できるようにします。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業中にわからなかったパソコン用語の意味を調べたり、ソフトウェアを繰り返して使うことが必要です。空き時間などを活用してタイピング練習をしてください。		
テキスト	資料を適宜配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	専門用語をたくさん覚えなければいけないため結構戸惑うし、教員の説明を受けながらパソコンを操作しなければならぬためついていけないと思うかもしれませんが、いつでも気軽に手を挙げて質問してください。		
評価方法	授業内課題（70%）と期末総合課題（30%）		
参考文献	授業中適宜提示します。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
山田 忍			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	「情報処理演習Ⅱ」では、大学や企業において幅広く利用されている表計算ソフトウェアである Microsoft Excel を教材として学習し、基礎的な技術を習得することを目的とする。具体的な到達目標は、次の通りである。①データに対し、適切な関数を判断し利用することができる。②適切なグラフを選択し、作成することができる。③データベース機能の利用し、簡単な分析を実施することができる。		
授業計画	第1回	ガイダンス、Excelの概要、入力基本操作	
	第2回	基礎的な関数の利用(1) (SUM、AVERAGE関数等)、計算式の入力	
	第3回	基礎的な関数の利用(2) (RANK、EQ関数)、絶対参照・相対参照・複合参照	
	第4回	基礎的な関数の利用(3) (ROUND、ROUNDUP、ROUNDDOWN、INT関数)	
	第5回	基礎的な関数の利用(4) (IF関数)	
	第6回	グラフの利用(グラフの種類と特徴)	
	第7回	見やすい表の作成(条件付き書式等)	
	第8回	まとめと応用(小テスト①)	
	第9回	応用的な関数の利用(1) (COUNTIF、SUMIF関数)	
	第10回	応用的な関数の利用(2) (IF関数の入れ子、AND、OR関数)	
	第11回	応用的な関数の利用(3) (VLOOKUP、INDEX関数)	
	第12回	データベース(テーブル、並び替え等)	
	第13回	ピボットテーブル	
	第14回	応用的な関数の利用(4) (日付関数等)、Word・PowerPointとの連携	
	第15回	まとめと応用(小テスト②)	
授業概要	本授業では講義・解説に加え、演習を行いながら、Microsoft Excelの基本的な操作を習得する。加えて、実務に使える応用的な操作方法の習得演習を行い、実践的なスキルを身につける。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	知識と技術を定着するための復習に必要な時間を十分確保すること。		
テキスト	資料を適宜配布する。		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	学期の前半は、操作中心の基本的な演習問題を繰り返すことで基礎力を養います。また、授業内で前回授業内容の復習も行うことで、知識と技術の定着を目指します。授業内課題を積み重ねることで、学期の後半には、基本から卒業後も活かせるようなスキルや考える力を段階的に身に付けることができます。		
評価方法	「小テスト①」(30%)および「小テスト②」(30%)、授業内課題(40%)、合計：100%で評価する。		
参考文献			
備考	USBメモリを持参すること		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】ビジネスシーンにてオフィスツールとして利用頻度の高い表計算ソフトの使い方や機能についての理解を深める。 【到達目標】表計算ソフトウェアを使う上で必須の基本機能（表計算、グラフ作成、関数等）を操作できる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 各回の授業ではタイピング課題に取り組みます。</p> <p>第2回 表計算ソフトウェアとは 授業では表計算ソフトウェアとしてMicrosoft Excelを使用します。</p> <p>第3回 表計算ソフトウェアの基本的な操作</p> <p>第4回 表の作成、セルの参照、数式 課題1</p> <p>第5回 関数の取り扱い 課題2</p> <p>第6回 関数を使いこなす 課題3</p> <p>第7回 関数を用いた状況に応じた処理の取り扱い 課題4</p> <p>第8回 グラフの作成と編集 課題5</p> <p>第9回 さまざまな種類のグラフの作成 課題6</p> <p>第10回 複合グラフの作成 課題7</p> <p>第11回 簡易データベースとしての利用 課題8</p> <p>第12回 ピボットテーブルによる集計</p> <p>第13回 ピボットテーブルによる集計 課題9</p> <p>第14回 総合実践（ABC分析） 課題10</p> <p>第15回 まとめ 期末課題</p>
授業概要	実務で利用されることの多い表計算ソフトの使い方や機能を演習形式で習得し、履修者全員が大学での学びや活動に必要なレベルに到達するとともに、将来のビジネスパーソンとしての素養の基礎を身に付ける。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし情報処理演習Ⅱの授業を行う。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。そのため【事後学修】として課題を課します。これまでの学習内容のすべてを確認したうえで、課された課題に取り組み、提出期日までに提出してください。
テキスト	適宜、講義資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	新しい知識や技術の習得は、毎回の授業（演習）を積み重ねていくことにより達成されるものです。授業を欠席しないことはもとより、授業内容を理解し習得できるよう留意して臨んでほしい。授業内で実施するタイピングの練習にも真剣に取り組んでほしい。呼名により出席確認をします。遅刻の場合は、授業終了後に遅刻の旨を自己申告してください。自己申告のない場合は欠席の取り扱いのままとなります。
評価方法	授業回数の3分の2以上出席した人を評価の対象とし、次の評価方法にしたがって評価を行います。①授業時間内タイピング課題の得点(3点×15＝45点満点)を20%、②授業時課題の得点の合計(各課題の配点の総合計を満点とする)を40%、③期末課題の得点(配点の総合計を満点とする)を40%。授業時間内タイピング課題は指定の時間内に指定の場所に提出されたファイルが評価の対象となります。タイピング課題の遅れ提出は評価対象外とします。授業時課題は配布された課題ファイルで完成させた課題のみ採点を行い、ルーブリックに基づいて評価を行います。課題ファイルは指定の期限内に指定の場所に提出されたファイルが評価の対象となります。
参考文献	図書館にはExcelに関連する本が数多く所蔵されています。
備考	必携：USBメモリ・講義資料

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	情報化社会においてはMicrosoft社のExcelが不可欠なビジネスツールであり、この授業はExcelの活用方法をテーマとして、Excelの基本的操作を学修し、数値を整理・図示・分析するのに必要な方法と基本知識を学びます。日商PC検定試験3級に合格するレベルを到達目標とします。		
授業計画	第1回	ガイダンスとExcelの基本的操作：データ入力・編集、オートフィル	
	第2回	集計と計算式	
	第3回	計算式と相対参照・絶対参照	
	第4回	相対参照・絶対参照の復習	
	第5回	総合演習(1)：計算式と相対参照・絶対参照	
	第6回	関数の使い方(1)：SUM, MAX, MIN, AVERAGE, COUNTなど	
	第7回	関数の使い方(2)：IF, SUMIF, COUNTIF, VLOOKUPなど	
	第8回	総合演習(2)：関数の活用	
	第9回	グラフの活用(1)：散布図, 折れ線グラフ, 棒グラフなど	
	第10回	グラフの活用(2)：レーダーチャートなど	
	第11回	グラフの活用(3)：複合グラフの作成・書式設定	
	第12回	総合演習(3)：グラフの活用	
	第13回	ピボットテーブルの使い方	
	第14回	データベース機能と活用方法	
	第15回	総合演習(4)：ピボットテーブルとデータベース	
授業概要	毎回、学習テーマを設定し、操作方法を説明しながら一緒に操作練習をしたあと、学習テーマに沿った課題をこなすことで基本的操作を習得できるようにします。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業中にわからなかったパソコン用語の意味を調べたり、Excelを繰り返して使うことが必要です。空き時間などを活用してタイピング練習をしてください。		
テキスト	主にインターネット上の情報を参照します。		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	専門用語をたくさん覚えなければいけないため結構戸惑うし、教員の説明を受けながらパソコンを操作しなければならぬためついていけないと思うかもしれませんが、いつでも気軽に手を挙げて質問してください。		
評価方法	授業内課題(40%)と総合演習の課題(60%)		
参考文献	授業の進行に合わせて、参考サイトを掲示します。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
石崎 毅			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	表計算ソフトエクセルの基本操作を習得するとともに、業務でよく用いられる書類の種類や代表的な計算手法を学ぶことを通して、会社勤務や起業したときにすぐに役立つ効率的に数値処理ができる力を育む。具体的な水準は、日商PC検定3級レベルとする。		
授業計画	第1回	ガイダンスとエクセルが使われる実務場面	
	第2回	データ入力と計算処理の基本（基本関数と演習）	
	第3回	表の作成と関数利用の基本（IF関数と演習）	
	第4回	業務でよく使用する計算（割引、構成比、原価率など）	
	第5回	業務でよく使用する集計（単純集計、クロス集計など）	
	第6回	データ管理と分析（グラフ化、ABC分析など）	
	第7回	業務書類の作成	
	第8回	ここまでのまとめと演習	
	第9回	集計機能（小計の計算機能と演習）	
	第10回	ピボットテーブル（その利便性と演習）	
	第11回	関数集計（COUNTIF関数、SUMIF関数と演習）	
	第12回	グラフ機能（グラフの作成）	
	第13回	グラフ機能（複合グラフの作成）	
	第14回	第14回までの既習事項をふまえた課題の解決	
	第15回	総合課題	
授業概要	操作解説と演習を効果的に配分して、問題解決力を高めていきます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	学習した操作を繰り返し復習してください。		
テキスト	必要に応じて資料を配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	エクセルはワードよりも難しく感じると思います。学習内容の定着が図れるように授業を構成したいと思しますので、みなさんも努力して授業に、そして特に復習に取り組んでください。		
評価方法	授業の出席と授業内課題（70%） 期末課題（30%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】業務データの処理・分析など、将来のビジネスパーソンとして必要な情報リテラシーの素養の基礎を身につける。</p> <p>【到達目標】日商PC検定試験データ活用2級[実技科目]合格レベル相当の表計算ソフトウェアの操作を行える。</p>		
授業計画	第1回	ガイダンス、データ入力の基本 授業ではタイピング課題に取り組む。表計算ソフトウェアはMicrosoft Excelを使用する。	
	第2回	データ分析に利用する基礎的な計算、データ分析によく使用する機能	
	第3回	表作成の活用	
	第4回	表作成の活用とデータ処理における計算	
	第5回	表作成の活用・表からの該当データの検索 課題1	
	第6回	ピボットテーブルの活用	
	第7回	ピボットテーブルの編集 課題2	
	第8回	グラフの活用（レーダーチャート、散布図）	
	第9回	グラフの活用（ABC分析、パレート図）	
	第10回	グラフの活用（近似直線の追加） 課題3	
	第11回	総合実践（模擬試験問題に挑戦）	
	第12回	総合実践（模擬試験問題に挑戦）	
	第13回	総合実践（模擬試験問題に挑戦）	
	第14回	総合実践（模擬試験問題に挑戦）	
	第15回	まとめ 日商PC検定試験データ活用[実技科目]の2級程度の問題に挑戦する	
授業概要	パソコン・表計算ソフトウェアを利用した情報活用について、毎回実践的に演習していくことにより、将来のビジネスパーソンとしての素養の基礎を身につける。		
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし応用情報処理演習 I の授業を行う。		
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。そのため【事後学修】として課題を課します。授業を踏まえて教科書を今一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理したうえで、授業時課題に取り組み、提出期日までに提出してください。		
テキスト	日本商工会議所編「よくわかるマスター 日商PC検定試験 データ活用 2級 公式テキスト&問題集 Excel 2019/2016対応」、FOM出版、3,300円（税込価格）、ISBNコード：978-4-938927-31-8		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	履修条件は①日商PC検定データ活用3級合格または②日商PC検定データ活用3級合格相当のスキルを有する方とします。テキストは必ず購入してください。呼名により出席確認をします。遅刻の場合は授業終了後に遅刻の旨を自己申告してください。自己申告のない場合は欠席の取り扱いのままとなります。		
評価方法	授業回数の3分の2以上出席した人を評価の対象とし、次の評価方法にしたがって評価を行います。①授業時間内タイピング課題の得点(3点×15=45点満点とする)を20%、②授業時課題の得点の合計(各課題の配点の総合計を満点とする)を40%、③まとめの試験の得点(配点の総合計を満点とする)を40%。まとめの試験は持ち込み不可とし、座席の指定を行います。授業時間内タイピング課題は指定の時間内に指定の場所に提出されたファイルが評価の対象となります。授業時課題は配布された課題ファイルで完成させた課題のみ採点を行い、ルーブリックに基づいて評価を行います。課題ファイルは指定の期限内に指定の場所に提出されたファイルが評価の対象となります。		
参考文献	図書館にはExcelや日商PC検定試験データ活用に関連する本が数多く所蔵されています。		

備考	テキスト・USBメモリは必ず持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
伊豆田 義人			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	並行開講している「応用情報処理演習Ⅲ」と連動している基礎会計学の学習である。会計学の基本は商業簿記と工業簿記である。この授業では商業簿記をはじめて学習する人を対象としている。簡単にいうと、簿記とは企業の金の動きを記録、集計、管理する一連の手続きで、企業の営業成績と財務状況を明らかにする処理である。「応用情報処理演習Ⅲ」と合わせて、この授業では、商業簿記の簿記一巡の手続きについて学習する。「日商簿記検定3級」で求められている簿記会計の知識と実践的なスキルの習得を到達目標としている。
授業計画	<p>第1回 簿記の基本 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 仕訳・その1</p> <p>第3回 仕訳・その2</p> <p>第4回 仕訳・その3</p> <p>第5回 仕訳・その4</p> <p>第6回 人名勘定</p> <p>第7回 補助簿</p> <p>第8回 総勘定元帳</p> <p>第9回 試算表</p> <p>第10回 伝票・証ひょう</p> <p>第11回 決算整理仕訳・その1</p> <p>第12回 決算整理仕訳・その2</p> <p>第13回 決算整理仕訳・その3</p> <p>第14回 精算表</p> <p>第15回 帳簿の締め切り・貸借対照表・損益計算書</p>
授業概要	「応用情報処理演習Ⅲ」の同時履修が必要である。本授業では「解説」と基本的な手続きについて学習して、「応用情報処理演習Ⅲ」では実践的な問題を解く。様々な分野で活躍されている10万人ほどの老若男女の方が、毎年、簿記3級を受験している。また、簿記は企業の金回りだけではなく、我々の生活や経済とも密接に関係していることから、「日商簿記検定3級」を受ける方だけではなく、社会人には欠かせない知識とスキルの一つと言えます。
実務経験及び授業の内容	「日商簿記検定3級」の範囲を網羅するので、仕訳、転記、試算表、決算、精算表、財務諸表などについて学習する。
時間外学習	本科目では、1時間ほどの事前学習と事後学習を前提としている。ただし、簿記一巡の手続きの理解、財務諸表の作成スキルなどの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数である。
テキスト	伊豆田義人『（簿記会計の座学ノート）商業簿記入門』株式会社PUBFUN（amazon限定販売）ISBN 9784802085892。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>基本から簿記を学習する授業です。簿記の手続きはとても簡単です。金を数えるため、足し算、引き算、割り算と掛け算をします。検定試験の対策を兼ねて、短期集中的にたくさんの課題をこなしながら簿記3級の範囲を網羅します。</p> <p>簿記の知識とスキルは、私たちの生活や経済、企業などにおける相互作用を理解するのに重要なので、学生のうちに身に付けてください。</p> <p>なお、商業簿記と工業簿記が基礎会計学分野の柱であるため、私の工業簿記の授業（応用データ分析）の授業も受講してくれば大変嬉しいです。</p>
評価方法	<p>授業課題およびノートの点検：40% 期末試験：40% 平常点：20%</p> <p>減点の対象：  (1) 欠欠以外の欠席や無断退室等 (2) 遅刻（出欠確認後） (3) 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動</p>

	授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある
参考文献	初回に紹介する。
備考	上の「授業のテーマ及び到達目標」、「授業概要」、「授業内容」と「受講生へのメッセージ」をよく読んでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
伊豆田 義人			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	同時開講の「応用情報処理演習II」と連動している基礎会計学の学習である。会計学の基本は商業簿記と工業簿記である。この授業では簿記をはじめて学習する人を対象としている。簡単にいうと、簿記とは企業の金の動きを記録、集計、管理する一連の手続きで、企業の営業成績と財務状況を明らかにする処理である。「応用情報処理演習II」と合わせて、この授業では、商業簿記の簿記一巡の手続きについて学習する。「日商簿記検定3級」で求められている簿記会計の知識と実践的なスキルの習得を到達目標としている。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス。基本的な概念の問題 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 仕訳・その1の演習問題</p> <p>第3回 仕訳・その2の演習問題</p> <p>第4回 仕訳・その3の演習問題</p> <p>第5回 仕訳・その4の演習問題</p> <p>第6回 人名勘定の演習問題</p> <p>第7回 補助簿の演習問題</p> <p>第8回 総勘定元帳の演習問題</p> <p>第9回 試算表の演習問題</p> <p>第10回 伝票・証ひょうの演習問題</p> <p>第11回 決算整理仕訳・その1の演習問題</p> <p>第12回 決算整理仕訳・その2の演習問題</p> <p>第13回 決算整理仕訳・その3の演習問題</p> <p>第14回 精算表の演習問題</p> <p>第15回 締め切り・貸借対照表・損益計算書の演習問題</p>
授業概要	「応用情報処理演習II」の同時履修が必要である。「応用情報処理演習II」本授業では「解説」と基本的な手続きを学習して、本授業では実践的な問題を解く。様々な分野で活躍されている10万人ほどの老若男女の方が、毎年、簿記3級を受験している。また、簿記は企業の金回りだけではなく、我々の生活や経済とも密接に関係していることから、「日商簿記検定3級」を受ける方だけではなく、社会人には欠かせない知識とスキルの一つと言えます。
実務経験及び授業の内容	「日商簿記検定3級」の範囲を網羅するので、「授業計画」のとおり、「授業計画」のとおり、仕訳、転記、試算表、決算、精算表、財務諸表などについて学習する。
時間外学習	本科目では、1時間ほどの事前学習と事後学習を前提としている。ただし、簿記一巡の手続きの理解、財務諸表の作成スキルなどの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数である。
テキスト	伊豆田義人『（簿記会計の座学ノート）商業簿記入門』株式会社PUBFUN（amazon限定販売）ISBN 9784802085892。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>基本から簿記を学習する授業です。簿記の手続きはとても簡単です。金を数えるため、足し算、引き算、割り算と掛け算をします。検定試験の対策を兼ねて、短期集中的にたくさんの課題をこなしながら簿記3級の範囲を網羅します。</p> <p>簿記の知識とスキルは、私たちの生活や経済、企業などにおける相互作用を理解するのに重要なので、学生のうちに身に付けてください。</p> <p>なお、商業簿記と工業簿記が基礎会計学分野の柱であるため、私の工業簿記の授業（応用データ分析）の授業も受講してくれば大変嬉しいです。</p>
評価方法	<p>授業課題およびノートの点検：40% 期末試験：40% 平常点：20%</p> <p>減点の対象</p> <p>(1) 欠欠以外の欠席や無断退室等 (2) 遅刻（出欠確認後） (3) 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動</p>

	授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある
参考文献	初回に紹介する。
備考	上の「授業のテーマ及び到達目標」、「授業概要」、「授業内容」と「受講生へのメッセージ」をよく読んでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
三枝 和彦			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>本授業は、TOEIC®L&amp;Rの問題演習を通して、英語の語彙、リスニング、リーディングの力を養うと同時に、TOEIC®L&amp;Rの問題形式に慣れることを目標とします。</p> <p>具体的な到達目標は次の通り。</p> <p>①TOEIC®L&amp;R試験で出題される問題で正答できるようになる。</p> <p>②TOEIC®L&amp;R試験の問題形式に慣れる。</p>		
授業計画	第1回	イントロダクション	
	第2回	Unit 1 旅行①	
	第3回	Unit 2 オフィス①	
	第4回	Unit 3 レストラン	
	第5回	Unit 4 季節・天気	
	第6回	Unit 5 健康	
	第7回	Unit 6 旅行②	
	第8回	中間試験と振り返り	
	第9回	Unit 7 休暇	
	第10回	Unit 8 オフィス②	
	第11回	Unit 9 ショッピング	
	第12回	Unit 10 就職活動	
	第13回	Unit 11 娯楽	
	第14回	Unit 12 旅行③	
	第15回	期末試験と振り返り	
授業概要	授業計画に沿って教科書を進めていきます。授業中に演習と解説を行います。		
実務経験及び授業の内容	該当しない		
時間外学習	この授業では、復習が重要になります。授業後は必ず復習をして、知識の定着を図りましょう。授業中に解いた問題を解き直すことも大切です。また、教科書以外の英語の文章をたくさん読むことも英語力を向上させるうえで有効です。		
テキスト	鶴岡公幸、Matthew Wilson、『The TOEIC®Listening and Reading Test CIRCUIT Updated Edition』松柏社 ISBN: 978-4-88198-729-2 (¥1900+税)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）			

評価方法	中間テスト (50%) 、期末試験 (50%)
参考文献	
備考	授業には必ず辞書を持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
北山 長貴			
			授業形態：演習・講義

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本英文法の再確認をテーマとします。</li> <li>・構文を理解して英文読解の基礎力をつけることを目標とします。</li> </ul> <p>【定員を設けます。受講生が多い場合は初回授業での抽選となります。】</p>
授業計画	<p>第1回 Intoroduction：5文型について</p> <p>第2回 Unit 1 名詞 ・ Unit 2 冠詞</p> <p>第3回 Unit 3 代名詞（1） ・ Unit 4 代名詞（2）</p> <p>第4回 Unit 5 時制 ・ Unit 6 進行形</p> <p>第5回 Unit 7 完了形（1） ・ Unit 8 完了形（2）</p> <p>第6回 Unit 9 助動詞（1） ・ Unit 10 助動詞（2）</p> <p>第7回 Unit 11 態（1） ・ Unit 12 態（2）</p> <p>第8回 Unit 13 不定詞（1） ・ Unit 14 不定詞（2）</p> <p>第9回 Unit 15 分詞（1） ・ Unit 16 分詞（2）</p> <p>第10回 Unit 17 動名詞（1） ・ Unit 18 動名詞（2）</p> <p>第11回 Unit 19 形容詞・副詞 ・ Unit 20 比較（1）</p> <p>第12回 Unit 21 比較（2） ・ Unit 22 前置詞</p> <p>第13回 Unit 23 関係詞（1） ・ Unit 24 関係詞（2）</p> <p>第14回 Unit 25 仮定法（1） ・ Unit 26 仮定法（2）</p> <p>第15回 まとめ：構文の理解</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語が苦手けれども、チャレンジしたい学生向けの授業とします。</li> <li>・特に英文法の復習を目的とします。</li> <li>・テキストの構成は、前半が文法説明とその練習問題、後半は短いエッセイです。</li> <li>・授業では1回に2課進むことを目標にします。</li> <li>・画像、動画、音楽などを紹介し異文化理解を深めてもらいます。</li> </ul>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習ノートを作り授業の予習をしてきてください。</li> <li>・授業中にわからなかった語句の意味を調べてください。</li> </ul>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『読解力をみがく基本英文法』（朝日出版）1600円（本体価格）ISBN 978-4-255-15560-9</li> </ul> <p>【購買部のさわりびで購入できます。】</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解答の提示はPower Pointを使います。</li> <li>・辞書を教室に持ってくるように。（電子辞書も可）</li> <li>・学務システムを利用して出席を取ります。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加度・出席（50％）、筆記試験（50％）</li> </ul>
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
三枝 和彦			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>本授業は、TOEIC®L&amp;Rの問題演習を通して、英語の語彙、リスニング、リーディングの力を養うと同時に、TOEIC®L&amp;Rの問題形式に慣れることを目標とします。</p> <p>具体的な到達目標は次の通り。</p> <p>①TOEIC®L&amp;R試験で出題される問題で正答できるようになる。</p> <p>②TOEIC®L&amp;R試験の問題形式に慣れる。</p>		
授業計画	第1回	イントロダクション	
	第2回	Unit 1 旅行①	
	第3回	Unit 2 オフィス①	
	第4回	Unit 3 レストラン	
	第5回	Unit 4 季節・天気	
	第6回	Unit 5 健康	
	第7回	Unit 6 旅行②	
	第8回	中間試験と振り返り	
	第9回	Unit 7 休暇	
	第10回	Unit 8 オフィス②	
	第11回	Unit 9 ショッピング	
	第12回	Unit 10 就職活動	
	第13回	Unit 11 娯楽	
	第14回	Unit 12 旅行③	
	第15回	期末試験と振り返り	
授業概要	授業計画に沿って教科書を進めていきます。授業中に演習と解説を行います。		
実務経験及び授業の内容	該当しない		
時間外学習	この授業では、復習が重要になります。授業後は必ず復習をして、知識の定着を図りましょう。授業中に解いた問題を解き直すことも大切です。また、教科書以外の英語の文章をたくさん読むことも英語力を向上させるうえで有効です。		
テキスト	鶴岡公幸、Matthew Wilson、『The TOEIC®Listening and Reading Test CIRCUIT Updated Edition』松柏社 ISBN: 978-4-88198-729-2 (¥1900+税)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）			

評価方法	中間テスト (50%) 、期末試験 (50%)
参考文献	
備考	授業には必ず辞書を持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
渡邊 真由美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	TOEICテストの対策を行う。 1. 英文法を復習する。 2. 効率的な解答方法を身につけることができる。 3. 英語を意味のあるまとまりとして聞き取ることができる。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 授業の進め方、評価方法についての説明</p> <p>第2回 Chap. 1 基本文型の確認。 問題の解答。</p> <p>第3回 Chap. 2 名詞の修飾の確認。 問題の解答。</p> <p>第4回 Chap. 3 文と文の接続について。 問題の解答。</p> <p>第5回 Chap. 4 進行形と受動態の確認。 問題の解答。</p> <p>第6回 Chap. 5 知覚動詞と使役動詞の確認。 問題の解答。</p> <p>第7回 Chap. 6 助動詞の確認。 問題の解答。</p> <p>第8回 Chap. 7 助動詞＋完了形の確認。 問題の解答。</p> <p>第9回 Chap. 8 時制（現在・過去・未来）の確認。 問題の解答。</p> <p>第10回 Chap. 9 現在完了形の確認。 問題の解答。</p> <p>第11回 Chap. 10 前置詞の確認。 問題の解答。</p> <p>第12回 Chap. 11 不定詞の確認。 問題の解答。</p> <p>第13回 Chap. 12 仮定法過去の確認。 問題の解答。</p> <p>第14回 Chap. 13 仮定法過去完了の確認。 問題の解答。</p> <p>第15回 Chap. 14 動名詞と分詞構文の確認。 問題の解答。</p>
授業概要	TOEIC対策を行う。英文法の確認に重点をおいたテキストを使用し、一回の授業につき一章ずつ進める。英文法の確認、テキストのTOEIC形式の問題の解答を行う。TOEIC形式の問題の解答は、授業時間内にteamsを利用して行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	各Chapterのはじめにでてくる“Vocabulary”と“Grammar”のパートを予習しておくこと。毎日、5分程度英語を聞くようにすること。
テキスト	松岡昇・傍島一夫著 _Start with Grammar Review for the TOEIC L&R Test_ 『文法復習型TOEIC L&R Test対策（松柏社）、2,100円＋税。ISBN: 9784881987841
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	TOEIC Testでの高得点を目指すのであれば、毎日の努力が必要です。英語のニュースや映画などを見る、単語の確認を行うなど、英語を生活のなかに取り込んでください。

評価方法	毎授業、teamsを使用してテキストの問題（10－20問程度）を解答してもらいます。その正答率によって評価します。正答率が、90%以上 S、70%以上 A、50%以上 B、30% C、29%以下 F。単位認定の条件として、全授業回数の三分の二以上の出席を求めます。
参考文献	英和辞典。高校時代に使用していたもので可。
備考	授業にはかならず英和辞典を持参すること。受講希望者が多数の場合は、抽選等の方法により、受講調整を行います。 状況によっては遠隔授業になります。その際は、teamsを利用した授業になります。適宜授業内容を変更します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小林 亜希			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平易な英語で書かれた文学作品を読むことによって、基礎的な読解力を涵養する。</li> <li>2. 基本的な語彙力と文法力を習得し、英文読解に活用できる。</li> <li>3. コンテキストに留意して英文を読み解く力を身につけ、英文の意味を正確に理解することができる。</li> <li>4. 物語の背景にある英語圏の文化と思想を学ぶことで、文化的コンテキストに留意して英文を理解することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 英文読解の基礎①—一品詞</p> <p>第3回 英文読解の基礎②—5文型</p> <p>第4回 The Happy Prince を読む：準動詞を捉える</p> <p>第5回 The Happy Prince を読む：文型を捉える</p> <p>第6回 The Happy Prince を読む：関係詞を捉える</p> <p>第7回 The Happy Prince を読む：分詞の見極め方</p> <p>第8回 The Happy Prince を読む：that の見極め方 小テスト①</p> <p>第9回 The Happy Prince を読む：仮定法を捉える</p> <p>第10回 The Happy Prince を読む：動名詞を捉える</p> <p>第11回 The Happy Prince を読む：不定詞を捉える</p> <p>第12回 The Happy Prince を読む：分詞構文を捉える</p> <p>第13回 The Happy Prince を読む：同格を捉える</p> <p>第14回 The Happy Prince を読む：テキストの解釈について</p> <p>第15回 授業のまとめ：小テスト②</p>
授業概要	アイルランドの作家オスカー・ワイルド (Oscar Wilde, 1854-1900) の童話「幸福の王子」(The Happy Prince, 1888) を、基本的な語彙と文法に留意し、一文ずつ訳読しながら読み進めます。読解に必要な文法事項は適宜詳しく解説します。また、小説の読解を通じて、英語圏の文化と思想についても解説します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回指定された箇所について、辞書を丁寧に引いて予習すること。</li> <li>・授業で解説した文法事項について、辞書や文法書を活用して復習すること。</li> </ul>
テキスト	初回の授業でハンドアウトを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料配布等のためにTeamsを利用することがあります。Office365のアカウントでTeamsにログインし、チーム「英語五」に参加してください。</li> <li>・基本的な文法事項を詳しく解説し、できるだけ丁寧に読み進めたいと思います。</li> <li>・辞書を必ず用意し、毎回十分な予習を行って授業に臨んでください。</li> </ul>
評価方法	授業時間内に実施する小テスト×2回（100％）。授業回数の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	適宜紹介します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	様々な分野の情報について読みとったり聞き取ったりし、目的に応じてその情報や考えを理解することができ、更には複数の領域を統合した言語活動が行えるようになること、CEFR-B2以上を目標にする。更にはTOEICやTOEFLで高得点をとる方法を伝授する。異文化間コミュニケーション能力を育成する。
授業計画	<p>第1回 『異文化コミ』事例1; TOEIC (Test 1, 以下同様) Part 1解説</p> <p>第2回 『異文化コミ』事例2; TOEIC Part 2解説</p> <p>第3回 『異文化コミ』事例3; TOEIC Part 3解説と確認小テスト</p> <p>第4回 『異文化コミ』事例4; TOEIC Part 3解説</p> <p>第5回 『異文化コミ』事例5; TOEIC Part 4解説と確認小テスト</p> <p>第6回 『異文化コミ』事例6; TOEIC Part 4解説</p> <p>第7回 『異文化コミ』事例7; TOEIC Part 4解説</p> <p>第8回 『異文化コミ』事例8; TOEIC Part 5解説と確認小テスト</p> <p>第9回 『異文化コミ』事例9; TOEIC Part 5解説</p> <p>第10回 『異文化コミ』事例10; TOEIC Part 6解説</p> <p>第11回 『異文化コミ』事例11; TOEIC Part 7解説と確認小テスト</p> <p>第12回 『異文化コミ』事例12; TOEIC Part 7解説</p> <p>第13回 『異文化コミ』事例13; TOEIC Part 7解説</p> <p>第14回 『異文化コミ』事例14; TOEIC Part 7解説と確認小テスト</p> <p>第15回 『異文化コミ』事例15 ; TOEIC復習テスト</p>
授業概要	TOEICの聞き取り問題と読解問題を毎回15問程度ずつ練習しながらTOEICの特徴を説明し高得点の為の練習方法を紹介する。各回の初めに社会言語学に基づいた異文化間コミュニケーション事例分析をする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回分の問題の答えを予習し、更に音読練習まで終わらせてから授業に臨んでほしい。
テキスト	『公式TOEIC Listening & Reading 問題集vol.9』（国際ビジネスコミュニケーション協会2021）；阿部隆夫、他著『42の事例から考える異文化間英語コミュニケーション』（開拓者2020年）[または、廉価版：タカオ・アベ『ピンときた！納得の異文化間英語コミュニケーション』（開拓社、2011）]
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	予習が重視され、理解できなかった箇所に関しては次回に適時説明がされる。
評価方法	平常の音読練習課題15%，提出課題25%，定期試験60%
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
太田 裕子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	TOEICの出題形式を知り、問題演習を通して慣れることを目標とします。また、基本的なlistening能力やreading能力をupするためのexerciseにも取り組みます。		
授業計画	第1回	オリエンテーション Self-Introduction	
	第2回	Pre-Test	
	第3回	Unit1 Food & Restaurant pp24-33 名詞	
	第4回	Unit2 Entertainment pp34-43 代名詞	
	第5回	Unit3 Travel pp44-53 助動詞	
	第6回	Unit4 Sports & Health pp54-63 形容詞	
	第7回	Unit5 Purchasing pp64-73 時制（1）現在進行形	
	第8回	Unit6 Housing & Accommodations pp74-83 時制（2）過去形・現在完了形	
	第9回	Unit7 Office Work（1）pp84-93 動名詞と不定詞	
	第10回	Unit8 Office Work（2）pp94-103 似た意味を持つ前置詞	
	第11回	Unit9 Employment pp104-113 注意すべき比較級	
	第12回	Unit10 Lectures & Presentations pp114-123 仮定法	
	第13回	Unit11 Business Affairs（1）pp124-133 関係詞	
	第14回	Unit12 Business Affairs（2）pp134-143 接続詞	
	第15回	習熟度の確認	
	第16回	試験など	
授業概要	ユニットの前半では、リスニング能力アップのための会話の聞き取りやリーディング能力アップのための速読、文法開設などとともにexerciseに取り組み、後半では、MINI TOEIC L&R TESTに挑戦します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	音声を手に入れて、ダイアログや本文を音読する。語彙を書いて覚える。		
テキスト	Fast Pass for the TOEIC L&R Test <改訂版>（2019） センテージ ラーニング 著者 上仲律子、是近成子 ISBN 978-4-86312-350-2		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	音声はダウンロードで手に入ります。聞き取れなかった部分を聞き取れるようになるまで繰り返し聞きましょう。また、語彙増強が英語力アップの要なので、教科書についている無料の学習ツールQuialetを活用しましょう。		
評価方法	TOEIC形式のミニ模試（Listening+Reading 50問）の筆記試験を行います。 提出物も評価の対象とします。 授業参加（アクティビティへの参加など20点）、提出物（30点）、学期末試験（50点）		
参考文献			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
太田 裕子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	4技能のエクササイズに取り組みます。基本的な知識を身に着けることが目標です。		
授業計画	第1回	オリエンテーション Self-Introduction	
	第2回	Unit1 Resellers-Good or Bad Be 動詞	
	第3回	Unit2 About Earphones 一般動詞	
	第4回	Unit3 Cash Registers 名詞・代名詞	
	第5回	Unit4 Funny Happenings During Online Lessons 過去形	
	第6回	Unit5 Loose-Fitting Clothing 進行形	
	第7回	Unit6 Shrinkflation Wh疑問文	
	第8回	Unit7 Living in the Countryside 前置詞	
	第9回	Unit8 Hanging Out in Streets and Parks 接続詞	
	第10回	Unit9 Plant Burgers Are Popular in America 現在完了形	
	第11回	Unit10 South Korean Culture Is Popular Worldwide 未来表現	
	第12回	Unit11 Doxing 助動詞	
	第13回	Unit12 Fast Movies 受動態	
	第14回	Unit13 Do We Need a "Dislike" Button on Social Media? 形容詞・副詞	
	第15回	習熟度の確認	
	第16回	試験など	
授業概要	Reading は速読の練習をし、そのあと、精読によって使用されている表現と基本的な文法事項を確認します。ListeningとSpeakingの練習にも取り組みます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	音声を手に入れて、音読をする。		
テキスト	Trend Scope (2023) 成美堂 Jonathan Lynch・委文 光太郎 著 ISBN : 978-4-7919-7265-4		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ListeningのConversationや Readingの本文の内容を確認した後、repeatingしたり、ペアワークで音読したりして体に叩き込んでいきます。使えそうな表現や語彙は読み方を確認し、書いて覚えましょう。なお、Readingは和訳担当を決めて授業中に発表していただきます。一文ずつ英文を読んでから、訳をします。クラス全体に聞こえるように、はっきり、ゆっくりを心掛けましょう。和訳は紙に書いて発表後に提出しましょう。		
評価方法	授業で読んだところの内容理解、文法事項、語彙に関する筆記試験を行います。 提出物も評価の対象とします。 授業参加（アクティビティへの参加など30点）、提出物（20点）、学期末試験（50点）		
参考文献			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
三枝 和彦			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>本授業は、TOEIC®L&amp;Rの問題演習を通して、英語の語彙、リスニング、リーディングの力を養うと同時に、TOEIC®L&amp;Rの問題形式に慣れることを目標とします。</p> <p>具体的な到達目標は次の通り。</p> <p>①TOEIC®L&amp;R試験で出題される問題で正答できるようになる。</p> <p>②TOEIC®L&amp;R試験の問題形式に慣れる。</p>		
授業計画	第1回	イントロダクション	
	第2回	Unit 1 旅行①	
	第3回	Unit 2 オフィス①	
	第4回	Unit 3 レストラン	
	第5回	Unit 4 季節・天気	
	第6回	Unit 5 健康	
	第7回	Unit 6 旅行②	
	第8回	中間試験と振り返り	
	第9回	Unit 7 休暇	
	第10回	Unit 8 オフィス②	
	第11回	Unit 9 ショッピング	
	第12回	Unit 10 就職活動	
	第13回	Unit 11 娯楽	
	第14回	Unit 12 旅行③	
	第15回	期末試験と振り返り	
授業概要	授業計画に沿って教科書を進めていきます。授業中に演習と解説を行います。		
実務経験及び授業の内容	該当しない		
時間外学習	この授業では、復習が重要になります。授業後は必ず復習をして、知識の定着を図りましょう。授業中に解いた問題を解き直すことも大切です。また、教科書以外の英語の文章をたくさん読むことも英語力を向上させるうえで有効です。		
テキスト	鶴岡公幸、Matthew Wilson、『The TOEIC®Listening and Reading Test CIRCUIT Updated Edition』松柏社 ISBN: 978-4-88198-729-2 (¥1900+税)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）			

評価方法	中間テスト (50%) 、期末試験 (50%)
参考文献	
備考	授業には必ず辞書を持参してください。

講義科目名称：英会話A（60400）

授業コード：60400

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
今井 コレット			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	Reflecting on the world's development and the issues we face, this course aims to prepare you to speak in English about topics concerning us all on an individual and broader level.
授業計画	第1回 Global perspectives 第2回 Climate change 第3回 Water 第4回 Clean energy 第5回 Poverty 第6回 Hunger 第7回 Children 第8回 Gender 第9回 Refugees 第10回 Insects 第11回 Vegetarianism 第12回 Plastic waste 第13回 Shopping 第14回 Partnerships 第15回 Final test / presentation
授業概要	Each unit begins with an introduction to the vocabulary relevant to each topic. Pairs or small groups of students will read about the topic together and then discuss the follow-up questions. The final section of each unit is dedicated to students discussing what can be done to solve various issues they have discussed.
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	Vocabulary and short assignments
テキスト	Living as Global Citizens 地球市民として生きる ISBN 978-4-523-17931-3
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	You will all have many opportunities to express your opinions in various situations. My hope for you in this course is to help you think about issues affecting us all and develop the skills to talk about them.
評価方法	Short tests in class (50%) and presentations(50%)
参考文献	
備考	

講義科目名称：英会話B（60410）

授業コード：60410

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
今井 コレット			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	Reflecting on the world's development and the issues we face, this course aims to prepare you to speak in English about topics concerning us all on an individual and broader level.
授業計画	<p>第1回 Global perspectives</p> <p>第2回 Climate change</p> <p>第3回 Water</p> <p>第4回 Clean energy</p> <p>第5回 Poverty</p> <p>第6回 Hunger</p> <p>第7回 Children</p> <p>第8回 Gender</p> <p>第9回 Refugees</p> <p>第10回 Insects</p> <p>第11回 Vegetarianism</p> <p>第12回 Plastic waste</p> <p>第13回 Shopping</p> <p>第14回 Partnerships</p> <p>第15回 Final test / presentation</p>
授業概要	Each unit begins with an introduction to the vocabulary relevant to each topic. Pairs or small groups of students will read about the topic together and then discuss the follow-up questions. The final section of each unit is dedicated to students discussing what can be done to solve various issues they have discussed.
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	Vocabulary and short assignments
テキスト	Living as Global Citizens 地球市民として生きる ISBN 978-4-523-17931-3
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	You will all have many opportunities to express your opinions in various situations. My hope for you in this course is to help you think about issues affecting us all and develop the skills to talk about them.
評価方法	Short tests in class (50%) and presentations(50%)
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
今井 コレット			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	In this class, students will discuss global issues and conduct various activities to improve their overall English skills. The goal of this class is for students to improve their English vocabulary and especially their English speaking and listening skills.
授業計画	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Topic: Overtourism (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第3回 Topic: Overtourism (group presentation and activities)</p> <p>第4回 Topic: Improving Education (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第5回 Topic: Improving Education (group presentation and activities)</p> <p>第6回 Topic: Rethinking Zoos (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第7回 Topic: Rethinking Zoos (group presentation and activities)</p> <p>第8回 Topic: Alternative Energys (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第9回 Topic: Alternative Energy (group presentation and activities)</p> <p>第10回 Topic: Equal Pay in Sports (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第11回 Topic: Equal Pay in Sports (group presentation and activities)</p> <p>第12回 Topic: Gaming Addiction (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第13回 Topic: Gaming Addiction (group presentation and activities)</p> <p>第14回 Topic: Right to Privacy (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第15回 Topic: Right to Privacy (group presentation and activities)</p>
授業概要	<p>Two weeks are used for one topic.</p> <p>In Week 1, the teacher will introduce the topic and teach basic phrases and discussion techniques and students will prepare for their presentations in Week 2.</p> <p>In Week 2, students have to give a short presentation about the topic and there will be a vocabulary quiz. After that, the class members will participate in group activities and games to actively practice English.</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	Vocabulary practice and short assignments.
テキスト	"Global Issues - An Introduction to Discussion Skills" 「身近な世界を英語で発信」、Seibido、ISBN: 978-4-7919-7225-8
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	English learning can be fun! If you really want to improve your English skills, you should try using it in your daily life: watch movies in English, read books in English, or just simply set your phone to English. You can also join local English activities. Studying English is not hard, let's try some interesting ways to improve your English in this class!
評価方法	<p>25%: Assignments</p> <p>25%: Vocabulary quizzes</p> <p>25%: Class participation</p> <p>25%: Group presentations</p>
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
今井 コレット			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	In this class, students will discuss global issues and conduct various activities to improve their overall English skills. The goal of this class is for students to improve their English vocabulary and especially their English speaking and listening skills.
授業計画	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Topic: Overtourism (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第3回 Topic: Overtourism (group presentation and activities)</p> <p>第4回 Topic: Improving Education (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第5回 Topic: Improving Education (group presentation and activities)</p> <p>第6回 Topic: Rethinking Zoos (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第7回 Topic: Rethinking Zoos (group presentation and activities)</p> <p>第8回 Topic: Alternative Energys (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第9回 Topic: Alternative Energy (group presentation and activities)</p> <p>第10回 Topic: Equal Pay in Sports (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第11回 Topic: Equal Pay in Sports (group presentation and activities)</p> <p>第12回 Topic: Gaming Addiction (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第13回 Topic: Gaming Addiction (group presentation and activities)</p> <p>第14回 Topic: Right to Privacy (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第15回 Topic: Right to Privacy (group presentation and activities)</p>
授業概要	<p>Two weeks are used for one topic.</p> <p>In Week 1, the teacher will introduce the topic and teach basic phrases and discussion techniques and students will prepare for their presentations in Week 2.</p> <p>In Week 2, students have to give a short presentation about the topic and there will be a vocabulary quiz. After that, the class members will participate in group activities and games to actively practice English.</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	Vocabulary practice and short assignments.
テキスト	"Global Issues - An Introduction to Discussion Skills" 「身近な世界を英語で発信」、Seibido、ISBN: 978-4-7919-7225-8
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	English learning can be fun! If you really want to improve your English skills, you should try using it in your daily life: watch movies in English, read books in English, or just simply set your phone to English. You can also join local English activities in Yonezawa. Studying English is not hard, let's try some interesting ways to improve your English in this class!
評価方法	<p>25%: Assignments</p> <p>25%: Vocabulary quizzes</p> <p>25%: Class participation</p> <p>25%: Group presentations</p>
参考文献	
備考	

講義科目名称：異文化理解実習（60451）

授業コード：

英文科目名称：一

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	1	選択必修
担当教員			
英語英文学科専任教員			
			授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	<p>(1) 英語圏における語学学校などの施設での研修を通して、現地の人々と英語で交流し、英語コミュニケーション能力と英語表現能力を向上させること</p> <p>(2) 課外活動やホームステイ等の異文化体験を通し多様性の理解と適応能力を養うこと</p>		
授業計画	第1回	ガイダンス：異文化理解実習の目的と概要説明、渡航に必要な事務手続の連絡	
	第2回	外国語コミュニケーション：英語コミュニケーションの基本について学ぶ	
	第3回	英語表現：生活に必要な具体的な英語表現について学ぶ	
	第4回	異文化理解（1）：多様性の理解について	
	第5回	異文化理解（2）：異文化適応について	
	第6回	実習：第1日 語学学校でのオリエンテーションとクラス分けなど ・移動日を含めて10日程度：学校で1日8時間（5日40時間）、異文化体験（休日分10時間） ・実習前日までに日本から現地まで移動	
	第7回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第8回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第9回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第10回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第11回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第12回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第13回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第14回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第15回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
授業概要	<p>英語圏（英語が母語あるいは日常のコミュニケーションの手段として広く使われている地域）の国での実習を通常春期・夏期休み期間（例年2月）に予定しています。英語英文学科の引率教員が渡航前に事前実習を10時間実施し、現地への移動方法、実習内容についても説明します。1回目の事前実習は半年以上前の月とし、その後毎月1回程度事前実習を予定しています。日程は実習生と教員の時間割に合わせて調整します。事前実習指導の後、実習国に渡航します。語学学校などの実習施設で授業を受けることによって、英語コミュニケーション練習をします。また、課外活動を通じて、異文化経験を積みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期間：移動日を含めて2週間以内</li> <li>・場所：英語圏の国を予定（決定次第掲示、事前実習でお知らせします）</li> <li>・学科を問わず事前指導を受講した者は参加可能です。安全、円滑な実習実現のため、最終的に渡航できるのは、やむを得ない理由の場合を除き、毎回の事前指導講座に出席した者とします。</li> </ul>		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	新聞やニュースをチェックして、実習に訪れる地域の取り巻く問題に興味や関心を持つこと。		
テキスト	資料と教材を事前指導および現地校にて適宜配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	どの学科の学生も参加できます。		
評価方法	事前指導参加（25%）、現地活動状況（65%）、実習後レポート（10%）		
参考文献			

講義科目名称：フランス語一（60460）

授業コード：60461 60462

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
寺本 弘子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基礎文法と基本表現を理解し、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」能力の基礎を身につける 2. フランス文化についての理解を深める。		
授業計画	第1回	授業ガイダンス/アルファベ、略語、つづり字記号	
	第2回	つづり字の読み方	
	第3回	1課 主語人称代名詞、国籍を表す形容詞	
	第4回	1課 国籍を表す形容詞、動詞êtreの直説法現在	
	第5回	1課 日常の基本的な挨拶 / 2課 名詞と不定冠詞	
	第6回	2課 名詞と不定冠詞、形容詞の性・数の一致	
	第7回	2課 形容詞の性・数の一致、色の語彙	
	第8回	これまでのまとめ / フランス文化紹介	
	第9回	Civilisation フランス料理	
	第10回	Civilisation フランス料理（発展学習）	
	第11回	3課 第一群規則動詞-er動詞の直説法現在	
	第12回	3課 定冠詞	
	第13回	3課 疑問文	
	第14回	フランス文化紹介	
	第15回	前期内容の理解度確認 / 前期のまとめ	
授業概要	フランス語を初めて学ぶ学生向けの講義です。フランス語の文法の初歩と簡単なフランス語の聞き取り、会話、作文を学びます。また、フランス文化について理解を深めます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	毎回の授業内容の予習・復習。毎回の授業で取ったノートやメモの整理。宿題への取り組み。		
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『タルト・タタン』、駿河台出版社、ISBN978-4-411-01120-6 C1085、2300円＋税。 (大学内の購買部で購入可能。)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には日々の地道な努力が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。教員の方でも、受講生の理解度を確認しながら授業を進めていきます。		
評価方法	出席および授業での教員の質問や練習問題への回答の正解度（20%）、宿題の提出（20%）、期末試験の結果（60%）の三項目によって評価を行います。		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
寺本 弘子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基礎文法と基本表現を理解し、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」能力の基礎を身につける 2. フランス文化についての理解を深める。
授業計画	<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回 4課 動詞avoirの直説法現在、形容詞の位置</p> <p>第3回 4課 否定文、人称代名詞の強勢形</p> <p>第4回 4課 avoirを使った慣用表現 / 5課 動詞allerの直説法現在</p> <p>第5回 5課 近接未来、指示形容詞</p> <p>第6回 5課 動詞faireの直説法現在、食事の時の表現</p> <p>第7回 これまでのまとめ / フランス文化紹介</p> <p>第8回 6課 所有形容詞</p> <p>第9回 6課 疑問形容詞、動詞pouvoirの直説法現在</p> <p>第10回 6課 数の読み方 / Civilisation 市場での買い物</p> <p>第11回 Civilisation 市場での買い物（発展学習）</p> <p>第12回 7課 疑問代名詞</p> <p>第13回 7課 非人称構文Il y a...、定冠詞の縮約</p> <p>第14回 7課 疑問副詞</p> <p>第15回 後期内容の理解度確認 / 後期のまとめ</p>
授業概要	「フランス語一」の履修学生を対象とした講義です。前期に引き続き、フランス語の文法の初歩と簡単なフランス語の聞き取り、会話、作文を学びます。また、フランス文化について理解を深めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の授業内容の予習・復習。毎回の授業で取ったノートやメモの整理。宿題への取り組み。
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『タルト・タタン』、駿河台出版社、ISBN978-4-411-01120-6 C1085、2300円＋税。 (大学内の購買部で購入可能。)
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には日々の地道な努力が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。教員の方でも、受講生の理解度を確認しながら授業を進めていきます。
評価方法	出席および授業での教員の質問や練習問題への回答の正解度（20%）、宿題の提出（20%）、期末試験の結果（60%）の三項目によって評価を行います。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
寺本 弘子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基礎文法と基本表現を理解し、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」能力の基礎を身につける 2. フランス文化についての理解を深める。		
授業計画	第1回	前年度「フランス語一、二」の既習事項（教科書1課から7課）の簡単な復習	
	第2回	8課 文法：動詞prendre, vouloirの直説法現在 / 部分冠詞（導入）	
	第3回	8課 文法：部分冠詞 / 女性形容詞の特殊な形	
	第4回	8課 語彙：数量の表現 / 読解：簡単な料理レシピ	
	第5回	9課 文法：動詞venirと近接過去	
	第6回	9課 文法：第二群規則動詞 / 補語人称代名詞（直接目的語）	
	第7回	9課 文法：補語人称代名詞（直接目的語）/ 補語人称代名詞（間接目的語）	
	第8回	9課 文法：補語人称代名詞（間接目的語）	
	第9回	これまでのまとめ/ Civilisation レストランに行こう	
	第10回	10課 文法：複合過去（助動詞avoirの例）	
	第11回	10課 文法：複合過去（助動詞avoirの例/複合過去（助動詞êtreの例）	
	第12回	10課 文法：複合過去（助動詞êtreの例）	
	第13回	10課 文法：中性代名詞en, y / 語彙：時の表現	
	第14回	教科書10課の復習	
	第15回	前期内容の理解度確認 / フランス文化紹介	
授業概要	前年度「フランス語一」及び「フランス語二」の履修学生を対象とした講義です。引き続き、フランス語の文法の初歩と簡単なフランス語の聞き取り、会話、作文を学びます。またフランス文化について理解を深めます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	毎回の授業内容の予習・復習。毎回の授業で取ったノートやメモの整理。宿題への取り組み。		
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『タルト・タタン』、駿河台出版社、ISBN978-4-411-01120-6 C1085、2300円＋税。（大学内の購買部で購入可能。）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には日々の地道な努力が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。教員の方でも、受講生の理解度を確認しながら授業を進めていきます。		
評価方法	出席および授業での教員の質問や練習問題への回答の正解度（20%）、宿題の提出（20%）、期末試験の結果（60%）の三項目によって評価を行います。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：フランス語四（60490）

授業コード：60490

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
寺本 弘子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基礎文法と基本表現を理解し、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」能力の基礎を身につける 2. フランス文化についての理解を深める。		
授業計画	第1回	11課	文法：半過去
	第2回	11課	文法：半過去/動詞savoir, connaitreの直説法現在
	第3回	12課	文法：非人称構文/時刻の表現
	第4回	12課	文法：代名動詞（再帰的用法）
	第5回	12課	文法：代名動詞（相互的用法）
	第6回	12課	文法：代名動詞（その他の用法）/感嘆文quelとque
	第7回	これまでのまとめ / Civilisation フランス人が好きなデザート	
	第8回	13課	文法：比較級
	第9回	13課	文法：比較級/文法：最上級
	第10回	13課	文法：最上級
	第11回	13課	文法：指示代名詞 / 語彙：商店の語彙
	第12回	14課	文法：単純未来
	第13回	14課	文法：単純未来
	第14回	14課	文法：命令法 / 語彙と表現：時の表現
	第15回		
授業概要	「フランス語三」の履修学生が対象の講義です。前期に引き続き、フランス語の文法の初歩と簡単なフランス語の聞き取り、会話、作文を学びます。またフランス文化について理解を深めます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	毎回の授業内容の予習・復習。毎回の授業で取ったノートやメモの整理。宿題への取り組み。		
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『タルト・タタン』、駿河台出版社、ISBN978-4-411-01120-6 C1085、2300円＋税。 (大学内の購買部で購入可能。)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には日々の地道な努力が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。教員の方でも、受講生の理解度を確認しながら授業を進めていきます。		
評価方法	出席および授業での教員の質問や練習問題への回答の正解度（20%）、宿題の提出（20%）、期末試験の結果（60%）の三項目によって評価を行います。		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中国語の基礎（発音と基本例文）を習得する。まず、中国語の発音について学び、挨拶や文法の初歩について習得することができる。毎回、必ず発音トレーニングを行うことで、正確な発音が習得できる。		
授業計画	第1回	ガイダンスを行い、授業の概要と受講に際しての諸注意を説明する。	
	第2回	声調と母音について解説し、正確に発音できるように練習をする。	
	第3回	子音について解説し、正確に発音できるように練習をする。	
	第4回	鼻母音と軽声について解説し、正確に発音できるように練習をする。	
	第5回	声調変化と挨拶表現について解説し、正確に発音できるように練習をする。	
	第6回	「是」と諾否疑問文について学び、例文の発音練習をする。	
	第7回	動詞述語文と選択疑問文について学び、例文の発音練習をする。	
	第8回	指示代詞と「的」の用法について学び、例文の発音練習をする。	
	第9回	疑問詞疑問文と「想」の用法について学び、例文の発音練習をする。	
	第10回	形容詞述語文と反復疑問文について学び、例文の発音練習をする。	
	第11回	「有」の用法と量詞について学び、例文の発音練習をする。	
	第12回	「了」の用法と前置詞について学び、例文の発音練習をする。	
	第13回	年月日と表現と手段・理由の疑問詞について学び、例文の発音練習をする。	
	第14回	第13課までの例文を使って、作文演習をする。	
	第15回	これまでの学習内容が修得できているか、確認する。	
授業概要	中国語の発音、ローマ字表記システムであるピンイン、および挨拶など簡単な日常会話を学び、中国語の基礎の習得を目指す。また、中国の文化・社会についても随時紹介していく。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。		
テキスト	杉野元子・黄漢青『大学生のための初級中国語24回』白帝社、2400円(税抜)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の学習で重要なのは声を出すこと。授業では、恥ずかしがらずに大きな声を出しましょう。		
評価方法	発言や発表、および期末の筆記試験で評価する。（発言・発表50%、試験50%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
李 通江			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	簡単なあいさつの言葉を使うことができるような基礎的運用能力を身につけることを目的とします。 この中国語Ⅰを履修した学生は、 1) 中国語でいう「普通話」とは何かを説明できる。【知識・理解】 2) 中国語でいうピンインとは何かを説明できる。【知識・理解】 3) ピンインに対応する音声を発音することができる。【技能】 4) 簡単な中国語のあいさつ言葉を適切に使うことができる。【技能】
授業計画	第1回 授業の進め方とガイダンス 第2回 発音（声調、母音） 第3回 発音（複母音、子音） 第4回 発音（子音、鼻母音） 第5回 人称代名詞、動詞”是”の文 第6回 指示代名詞、疑問詞疑問文 第7回 動詞述語文、所有を表す動詞”有” 第8回 形容詞述語文、助数詞 第9回 時刻と時間量の表現 第10回 完了を表す”了”、所在を表す”在” 第11回 連動文 第12回 助動詞”想””要” 第13回 経験を表す”過” 第14回 存在を表す”有” 第15回 復習とまとめ *進み具合によって多少の変更があります。
授業概要	本授業は、教科書に提示された単語や文型、文法及び本文を説明し、重点的に応用練習を行い、中国の流行や最新事情などを随時に紹介する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	1 テキストの単語、文法をしっかりと覚える。2 テキストに付随するCDを活用する。3 目標を立ててモチベーションを維持する。例えば、中国旅行、中国の留学生と話すなど。
テキスト	テキスト：改訂版 『さあ、中国語を学ぼう！ 会話・講読』 竹島毅、趙キン著白水社、2, 400円＋税。ISBN978-4-560-06942-4 C3087 ￥2400E 1階大学内の購買部で購入してください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の勉強は繰り返しと積み重ねが大切です。 1 予習、復習は必ず行う。2 わからないところがあれば積極的に質問する。3 声を出して会話文、読解文を読む練習を行う。 以下を満たしていることを合格の基準とする。 1 中国語文法の基礎を身につけている。2 初級程度の中国語会話ができる。 3 中国語を使って簡単な交流できる。
評価方法	授業への参加度20点＋授業中での練習30点＋テスト50点 合計100点
参考文献	参考書、辞書：授業中に何種類か紹介するので、必要な人はそれを参考にすること。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中国語の基本文法を習得する。「中国語一」での内容をふまえ、さらに高度な文法事項を身につけることができる。毎回、必ず発音トレーニングを行うことで、正確な発音が習得できる。		
授業計画	第1回	ガイダンスを行い、授業の概要と受講に際しての諸注意を説明する。	
	第2回	場所の指示代詞と存在の表現について学び、例文を発音練習する。	
	第3回	完了の「了」と動詞の重ね型について学び、例文を発音練習する。	
	第4回	経験の表現と動作量について学び、例文を発音練習する。	
	第5回	時間量と前置詞について学び、例文を発音練習する。	
	第6回	「会」「能」の用法と主述述語について学び、例文を発音練習する。	
	第7回	比較の表現と年齢の尋ね方について学び、例文を発音練習する。	
	第8回	「是～的」の用法と金額の言い方について学び、例文を発音練習する。	
	第9回	状態補語と二重目的語について学び、例文を発音練習する。	
	第10回	方向補語と進行、禁止の表現について学び、例文を発音練習する。	
	第11回	結果補語と処置文について学び、例文を発音練習する。	
	第12回	受身文と使役文について学び、例文を発音練習する。	
	第13回	近い未来の表現と複分について学び、例文を発音練習する。	
	第14回	これまで学んだ重要な例文を使って、作文練習をする。	
	第15回	これまでの学習内容が習得できているか、確認する。	
授業概要	存在・完了・経験・可能・比較・進行・受身・使役・様々な補語など、中国語の基本的な文法事項について講義する。毎回提示する重要構文を正確に理解し、使用できるように指導する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。		
テキスト	杉野元子・黄漢青『大学生のための初級中国語24回』白帝社、2400円(税抜)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学は暗記が必要。復習をして次の授業の準備をする習慣を身につけましょう。		
評価方法	発言や発表、および期末の筆記試験をもとに評価する。（発言・発表50%、試験50%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
李 通江			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>前期に履修した中国語Ⅰの学修内容を発展させ、日常的場面での会話を学び、応用的な運用能力を身につけるとともに、話し言葉を基盤とする平易な文章を読み解く能力を身につけることを目的とします。</p> <p>この中国語Ⅱを履修した学生は、</p> <p>1) 現代の標準的な中国語の文の特徴を指摘できる。【知識・理解】</p> <p>2) 現代標準中国語の辞書を使用できる。【知識・理解】</p> <p>3) 現代の中国語による日常的な会話を展開することができる。【技能】</p> <p>4) 現代の中国語の話し言葉を基礎とする平易な文章を読み、模倣できる。【技能】</p>
授業計画	<p>第1回 授業の進め方とガイダンス</p> <p>第2回 前期の復習、現在進行形、主述述語文</p> <p>第3回 助動詞”会”</p> <p>第4回 様態補語、助動詞”能”</p> <p>第5回 比較の表現</p> <p>第6回 副詞”有点儿”、持続表現</p> <p>第7回 名詞述語文、変化を表す”了”</p> <p>第8回 2つの目的語を取る動詞</p> <p>第9回 結果補語</p> <p>第10回 近い未来を表す表現</p> <p>第11回 方向補語</p> <p>第12回 使役表現</p> <p>第13回 可能補語</p> <p>第14回 受け身</p> <p>第15回 復習とまとめ *進み具合によって多少の変更があります。</p>
授業概要	上記の目標を達成するため、中国語Ⅰで使用したテキストを継続して使用しつつ、前期と同様の運営を行います。また、映像資料によりながら、実際に中国語が使われている情景を観察してみます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	中国語Ⅰと同様、教材に添付された音声資料をあらかじめよく聞いておき、音声を確認します。辞書を活用して会話の内容がきちんと把握できるかどうか点検します。疑問点があればメモをし、随時教員に質問しながら受講して下さい。また確認のためのドリルは、授業中の指示に従って、自主的に継続して取り組みましょう。授業で聞いた説明で、教材に疑問の箇所が残っていないかどうかを確かめます。それから、何度も声に出して読み、できる限り記憶して下さい。
テキスト	テキスト：改訂版 『さあ、中国語を学ぼう！ 会話・講読』 竹島毅、趙キン著白水社、2、400円＋税。ISBN978-4-560-06942-4 C3087 ￥2400E 1階大学内の購買部で購入してください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中国語Ⅱの学習では、辞書の助けが必須になります。辞書を活用する習慣を身につけましょう。以下を満たしていることを合格の基準とする。 現代標準中国語の日常的な表現を、場面に応じて口頭で使用することができるとともに、平易な読み物を辞書の助けを借りながら読みこなす能力を身につけていることを合格の基準とします。
評価方法	授業への参加度20点＋授業中での練習30点＋テスト50点 合計100点
参考文献	参考書、辞書：授業中に何種類か紹介するので、必要な人はそれを参考にすること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	「中国語一」・「中国語二」で学んだ基礎的な内容をふまえ、さらに高度な中国語の知識が習得できる。毎回、必ず発音トレーニングを行うことで、正確な発音が習得できる。		
授業計画	第1回	ガイダンスを行い、授業の概要と受講に際しての諸注意を説明する。	
	第2回	中国語一で学んだ、中国語の発音について復習をする。	
	第3回	中国語の基本文型の構造、語順の原則について復習をする。	
	第4回	「在」の四つの用法について学び、例文を発音練習する。	
	第5回	「工作」の用法、歓迎の表現について学び、例文を発音練習する。	
	第6回	「好きだ」の表現、「和」の用法、経験について学び、例文を発音練習する。	
	第7回	「就」の用法、「どうですか」の表現について学び、例文を発音練習する。	
	第8回	「多」＋形容詞の表現、「才」の用法について学び、例文を発音練習する。	
	第9回	比較の表現、「と」の表現、逆接の接続詞について学び、例文を発音練習する。	
	第10回	値段と金額、連用修飾の表現について学び、例文を発音練習する。	
	第11回	「ちょっと」の言い方、許可の表現について学び、例文を発音練習する。	
	第12回	「会」「能」の用法、様態補語の表現について学び、例文を発音練習する。	
	第13回	「用」の用法、離合詞の表現について学び、例文を発音練習する。	
	第14回	第13回まで学んだ例文を使って、作文演習をする。	
	第15回	これまでの学習内容が修得できているか、確認する。	
授業概要	中国語の様々な文法事項について講義する。テキストの解説について正確に理解した上で、それを活用して自分の考えを中国語で表現できるように指導する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。		
テキスト	村松恵子・謝平『中国語入門から初級の基礎力養成講座会話篇』白帝社、2400円(税抜)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中国語は初級からのレベルアップが難しい言語です。基礎事項を確認しつつ、応用力を鍛えましょう。		
評価方法	発言や発表、および期末の筆記試験で評価する。（発言・発表50%、試験50%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	「中国語一」・「中国語二」・「中国語三」で学んだ内容をふまえ、さらに高度な中国語の知識が習得できる。毎回、必ず発音トレーニングを行うことで、正確な発音が習得できる。		
授業計画	第1回	ガイダンスを行い、授業の概要と受講に際しての諸注意を説明する。	
	第2回	時間量の表現、「着」の用法について学び、例文を発音練習する。	
	第3回	存現文、「から」の表現について学び、例文を発音練習する。	
	第4回	「要」の用法、「さらに」の表現について学び、例文を発音練習する。	
	第5回	兼語式動詞文、「請」の用法、「打算」の用法について学び、例文を発音練習する。	
	第6回	結果補語と方向補語の表現について学び、例文を発音練習する。	
	第7回	複合方向補語の表現と「但」の用法について学び、例文を発音練習する。	
	第8回	使役の表現、「好」の用法、不定代名詞の表現について学び、例文を発音練習する。	
	第9回	極端さの表現、「来」の用法について学び、例文を発音練習する。	
	第10回	「給」の用法、可能補語、禁止の表現について学び、例文を発音練習する。	
	第11回	前置詞「把」、副詞「先」の用法について学び、例文を発音練習する。	
	第12回	「的」「被」「叫」「地」の用法について学び、例文を発音練習する。	
	第13回	指示詞＋形容詞、程度補語、自然現象の表現について学び、例文を発音練習する。	
	第14回	これまで学んだ例文や単語を使って、自己紹介の文章を作成する。	
	第15回	これまでの例文がきちんと暗記できているか、確認する。	
授業概要	中国語の様々な文法事項について講義する。テキストの解説について正確に理解した上で、自分の考えを中国語で表現できるように指導する。最終的には中国語で自己紹介ができるレベルを目指す。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。		
テキスト	村松恵子・謝平『中国語入門から初級の基礎力養成講座会話篇』白帝社、2400円(税抜)		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	中国語三までに修得した文法・単語も活かしつつ、様々な場面での会話をシミュレーションして、自分を考えを自由に表現できる力を身につけましょう。		
評価方法	発言や発表、および期末の筆記試験をもとに評価する。(発言・発表50%、試験50%)		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
			授業形態：実技、演習、講義

授業のテーマ及び到達目標	個人種目のスポーツ（バドミントン、卓球、ゴルフ、テニス）を実践し、その基礎的な技術の習得、ルールや競技特性の理解を図ることで、生涯にわたりスポーツに親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。 1) 実施種目のルールや競技特性を理解することができる。 2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施種目を実践することができる。 3) 個々の技術や体力に応じて、仲間と協同して実施種目を実践することができる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 体力・運動能力の測定①</p> <p>第3回 体力・運動能力の測定②</p> <p>第4回 バドミントン、卓球 (1) 基礎技術の習得</p> <p>第5回 バドミントン、卓球 (2) ゲーム理解</p> <p>第6回 バドミントン、卓球 (3) ゲーム展開（シングルス）</p> <p>第7回 バドミントン、卓球 (4) ゲーム展開（ダブルス）</p> <p>第8回 ゴルフ、テニス (1) 基礎技術の習得（ショートアイアン、ストローク）</p> <p>第9回 ゴルフ、テニス (2) 基礎技術の習得（アプローチ、サーブ）</p> <p>第10回 ゴルフ、テニス (3) ゲーム理解（簡易ゲーム、シングルス）</p> <p>第11回 ゴルフ、テニス (4) ゲーム理解（簡易ゲーム、ダブルス）</p> <p>第12回 ゴルフ、テニス (5) ゲーム展開（ラウンド団体、チーム対抗戦）</p> <p>第13回 ゴルフ、テニス (6) ゲーム展開（ラウンド個人、チーム対抗戦）</p> <p>第14回 グループ実践①</p> <p>第15回 グループ実践②</p>
授業概要	様々な個人種目のスポーツを行う。 初回のガイダンスにおいて受講者数を決定し、それを踏まえて実際の授業方法を指示する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	体調に留意するとともに、実施種目のルールや歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。 日頃よりスポーツに関連する情報にアンテナを張ること。
テキスト	運動に適した服装、屋外種目は運動用シューズ、屋内種目は体育館用シューズを必ず着用すること。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	個人種目であっても仲間がいないとスポーツは成立しません。楽しくスポーツを行えることができる環境を仲間とともに作っていきましょう。
評価方法	授業参加度（主体的・積極的）60%、ゲーム活動への取り組みや課題40%
参考文献	

備考	1) 2年生ですすでにスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できない。また、2024年度前期のスポーツ実技の履修は1単位のみとする（例えば、スポーツ実技一と三を同時に履修することはできない）。 2) 履修者の上限は40名とする。上限を超えた場合は抽選を行う（2年生でスポーツ実技未履修の学生は優先する）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	個人種目のスポーツ（バドミントン、卓球、ゴルフ、テニス）を実践し、その基礎的な技術の習得、ルールや競技特性の理解を図ることで、生涯にわたりスポーツに親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。 1) 実施種目のルールや競技特性を理解することができる。 2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施種目を実践することができる。 3) 個々の技術や体力に応じて、仲間と協同して実施種目を実践することができる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 体力・運動能力の測定①</p> <p>第3回 体力・運動能力の測定②</p> <p>第4回 バドミントン、卓球 (1) 基礎技術の習得</p> <p>第5回 バドミントン、卓球 (2) ゲーム理解</p> <p>第6回 バドミントン、卓球 (3) ゲーム展開（シングルス）</p> <p>第7回 バドミントン、卓球 (4) ゲーム展開（ダブルス）</p> <p>第8回 ゴルフ、テニス (1) 基礎技術の習得（ショートアイアン、ストローク）</p> <p>第9回 ゴルフ、テニス (2) 基礎技術の習得（アプローチ、サーブ）</p> <p>第10回 ゴルフ、テニス (3) ゲーム理解（簡易ゲーム、シングルス）</p> <p>第11回 ゴルフ、テニス (4) ゲーム理解（簡易ゲーム、ダブルス）</p> <p>第12回 ゴルフ、テニス (5) ゲーム展開（ラウンド団体、チーム対抗戦）</p> <p>第13回 ゴルフ、テニス (6) ゲーム展開（ラウンド個人、チーム対抗戦）</p> <p>第14回 グループ実践①</p> <p>第15回 グループ実践②</p>
授業概要	様々な個人種目のスポーツを行う。 初回のガイダンスにおいて受講者数を決定し、それを踏まえて実際の授業方法を指示する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	体調に留意するとともに、実施種目のルールや歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。 日頃よりスポーツに関連する情報にアンテナを張ること。
テキスト	運動に適した服装、屋外種目は運動用シューズ、屋内種目は体育館用シューズを必ず着用すること。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	個人種目であっても仲間がいないとスポーツは成立しません。楽しくスポーツを行えることができる環境を仲間とともに作っていきましょう。
評価方法	授業参加度（主体的・積極的）60%、ゲーム活動への取り組みや課題40%
参考文献	

備考	1) 2年生ですでにスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できない。また、2024年度後期のスポーツ実技の履修は1単位のみとする（例えば、スポーツ実技二と四を同時に履修することはできない）。 2) 履修者の上限は40名とする。上限を超えた場合は抽選を行う（2年生でスポーツ実技未履修の学生は優先する）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	団体種目のスポーツ（バレーボール、フットサル、ソフトボール、バスケットボール）を実践し、その基礎的な技術の習得、ルールや競技特性の理解を図ることで、生涯にわたりスポーツに親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。 1) 実施種目のルールや競技特性を理解することができる。 2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施種目を実践することができる。 3) 個々の技術や体力に応じて、仲間と協同して実施種目を実践することができる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 体力・運動能力の測定①</p> <p>第3回 体力・運動能力の測定②</p> <p>第4回 バレーボールまたはフットサル (1) 基礎技術の習得</p> <p>第5回 バレーボールまたはフットサル (2) ゲーム理解</p> <p>第6回 バレーボールまたはフットサル (3) ゲーム展開（攻め）</p> <p>第7回 バレーボールまたはフットサル (4) ゲーム展開（守り）</p> <p>第8回 ソフトボール (1) 基礎技術の習得</p> <p>第9回 ソフトボール (2) ゲーム理解</p> <p>第10回 ソフトボール (3) ゲーム展開</p> <p>第11回 バスケットボール (1) 基礎技術の習得</p> <p>第12回 バスケットボール (2) ゲーム理解</p> <p>第13回 バスケットボール (3) ゲーム展開</p> <p>第14回 グループ実践①</p> <p>第15回 グループ実践②</p>
授業概要	様々な団体種目のスポーツを行う。 初回のガイダンスにおいて受講者数を決定し、それを踏まえて実際の授業方法を指示する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	体調に留意するとともに、実施種目のルールや歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。 日頃よりスポーツに関連する情報にアンテナを張ること。
テキスト	運動に適した服装、屋外種目は運動用シューズ、屋内種目は体育館用シューズを必ず着用すること。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	団体種目は仲間との関係性が重要です。お互いの特徴を活かし合い仲間とスポーツを行う楽しさを体験してもらいたいです。
評価方法	授業参加度（主体的・積極的）60%、ゲーム活動への取り組みや課題40%
参考文献	
備考	1) 2年生ですでにスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できない。また、2024年度前期のスポーツ実技の履修は1単位のみとする（例えば、スポーツ実技一と三を同時に履修することはできない）。 2) 履修者の上限は40名とする。上限を超えた場合は抽選を行う（2年生でスポーツ実技未履修の学生は優先す

	る)。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	<p>団体種目のスポーツ（バレーボール、フットサル、ソフトボール、バスケットボール）を実践し、その基礎的な技術の習得、ルールや競技特性の理解を図ることで、生涯にわたりスポーツに親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。</p> <p>1) 実施種目のルールや競技特性を理解することができる。</p> <p>2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施種目を実践することができる。</p> <p>3) 個々の技術や体力に応じて、仲間と協同して実施種目を実践することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 体力・運動能力の測定①</p> <p>第3回 体力・運動能力の測定②</p> <p>第4回 バレーボールまたはフットサル (1) 基礎技術の習得</p> <p>第5回 バレーボールまたはフットサル (2) ゲーム理解</p> <p>第6回 バレーボールまたはフットサル (3) ゲーム展開（攻め）</p> <p>第7回 バレーボールまたはフットサル (4) ゲーム展開（守り）</p> <p>第8回 ソフトボール (1) 基礎技術の習得</p> <p>第9回 ソフトボール (2) ゲーム理解</p> <p>第10回 ソフトボール (3) ゲーム展開</p> <p>第11回 バスケットボール (1) 基礎技術の習得</p> <p>第12回 バスケットボール (2) ゲーム理解</p> <p>第13回 バスケットボール (3) ゲーム展開</p> <p>第14回 グループ実践①</p> <p>第15回 グループ実践②</p>
授業概要	<p>様々な団体種目のスポーツを行う。</p> <p>初回のガイダンスにおいて受講者数を決定し、それを踏まえて実際の授業方法を指示する。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>体調に留意するとともに、実施種目のルールや歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。</p> <p>日頃よりスポーツに関連する情報にアンテナを張ること。</p>
テキスト	<p>運動に適した服装、屋外種目は運動用シューズ、屋内種目は体育館用シューズを必ず着用すること。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>団体種目は仲間との関係性が重要です。お互いの特徴を活かし合い仲間とスポーツを行う楽しさを体験してもらいたいです。</p>
評価方法	<p>授業参加度（主体的・積極的）60%、ゲーム活動への取り組みや課題40%</p>
参考文献	

備考	1) 2年生ですでにスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できない。また、2024年度後期のスポーツ実技の履修は1単位のみとする（例えば、スポーツ実技二と四を同時に履修することはできない）。 2) 履修者の上限は40名とする。上限を超えた場合は抽選を行う（2年生でスポーツ実技未履修の学生は優先する）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
			授業形態：実技、演習、講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>ニュースポーツを実践し、その基礎的な技術の習得、ルールや競技特性の理解を図ることで、生涯にわたりスポーツに親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。</p> <p>1) 実施種目のルールや競技特性を理解することができる。</p> <p>2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施種目を実践することができる。</p> <p>3) 個々の技術や体力に応じて、仲間と協同して実施種目を実践することができる。</p>		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	体力・運動能力の測定①	
	第3回	体力・運動能力の測定②	
	第4回	スカイクロス (1) 基礎技術の習得	
	第5回	スカイクロス (2) ゲーム理解・展開	
	第6回	インディアカ (1) 基礎技術の習得	
	第7回	インディアカ (2) ゲーム理解・展開	
	第8回	フリーテニス (1) 基礎技術の習得	
	第9回	フリーテニス (2) ゲーム理解	
	第10回	フリーテニス (3) ゲーム展開	
	第11回	ユニホック (1) 基礎技術の習得	
	第12回	ユニホック (2) ゲーム理解	
	第13回	ユニホック (3) ゲーム展開	
	第14回	グループ実践①	
	第15回	グループ実践②	
授業概要	<p>様々なニュースポーツを行う。</p> <p>初回のガイダンスにおいて受講者数を決定し、それを踏まえて実際の授業方法を指示する。</p>		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	<p>体調に留意するとともに、実施種目のルールや歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。</p> <p>日頃よりスポーツに関連する情報にアンテナを張ること。</p>		
テキスト	<p>運動に適した服装、屋外種目は運動用シューズ、屋内種目は体育館用シューズを必ず着用すること。</p>		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>世の中には数多くのスポーツが存在します。これまでに体験したことのないスポーツに触挑戦することで、生涯にわたり楽しむことができるスポーツと出会えるかもしれません。</p>		
評価方法	<p>授業参加度（主体的・積極的）60%、ゲーム活動への取り組みや課題40%</p>		
参考文献			

備考	1) 2年生ですでにスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できない。また、2024年度前期のスポーツ実技の履修は1単位のみとする（例えば、スポーツ実技一と三を同時に履修することはできない）。 2) 履修者の上限は40名とする。上限を超えた場合は抽選を行う（2年生でスポーツ実技未履修の学生は優先する）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	<p>ニュースポーツを実践し、その基礎的な技術の習得、ルールや競技特性の理解を図ることで、生涯にわたりスポーツに親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。</p> <p>1) 実施種目のルールや競技特性を理解することができる。</p> <p>2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施種目を実践することができる。</p> <p>3) 個々の技術や体力に応じて、仲間と協同して実施種目を実践することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 体力・運動能力の測定①</p> <p>第3回 体力・運動能力の測定②</p> <p>第4回 スカイクロス (1) 基礎技術の習得</p> <p>第5回 スカイクロス (2) ゲーム理解・展開</p> <p>第6回 インディアカ (1) 基礎技術の習得</p> <p>第7回 インディアカ (2) ゲーム理解・展開</p> <p>第8回 フリーテニス (1) 基礎技術の習得</p> <p>第9回 フリーテニス (2) ゲーム理解</p> <p>第10回 フリーテニス (3) ゲーム展開</p> <p>第11回 ユニホック (1) 基礎技術の習得</p> <p>第12回 ユニホック (2) ゲーム理解</p> <p>第13回 ユニホック (3) ゲーム展開</p> <p>第14回 グループ実践①</p> <p>第15回 グループ実践②</p>
授業概要	<p>様々なニュースポーツを行う。</p> <p>初回のガイダンスにおいて受講者数を決定し、それを踏まえて実際の授業方法を指示する。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>体調に留意するとともに、実施種目のルールや歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。</p> <p>日頃よりスポーツに関連する情報にアンテナを張ること。</p>
テキスト	<p>運動に適した服装、屋外種目は運動用シューズ、屋内種目は体育館用シューズを必ず着用すること。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>世の中には数多くのスポーツが存在します。これまでに体験したことのないスポーツに触挑戦することで、生涯にわたり楽しむことができるスポーツと出会えるかもしれません。</p>
評価方法	<p>授業参加度（主体的・積極的）60%、ゲーム活動への取り組みや課題40%</p>
参考文献	
備考	<p>1) 2年生ですでにスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できない。また、2024年度後期のスポーツ実技の履修は1単位のみとする（例えば、スポーツ実技二と四を同時に履修することはできない）。</p>

	2) 履修者の上限は40名とする。上限を超えた場合は抽選を行う（2年生でスポーツ実技未履修の学生は優先する）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
			授業形態：実技、演習、講義

授業のテーマ及び到達目標	有酸素運動や筋力トレーニング等を実践し、その基礎的な技術の習得、運動特性の理解を図ることで、生涯にわたり身体運動に親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。 1) 実施運動の運動特性を理解することができる。 2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施運動を実践することができる。 3) 自身の技術や体力などに応じた運動プログラムを作成し、実践することができる。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	体力・運動能力の測定①	
	第3回	体力・運動能力の測定②	
	第4回	ウォーキング、ジョギング	
	第5回	ダンス①	
	第6回	ダンス②	
	第7回	筋力トレーニング (1) 自重トレーニング	
	第8回	筋力トレーニング (2) ウェイトトレーニング	
	第9回	運動実践 (1) 運動プログラムの作成	
	第10回	運動実践 (2) 運動プログラムの実践①	
	第11回	運動実践 (3) 運動プログラムの実践②	
	第12回	運動実践 (4) 運動プログラムの改善	
	第13回	運動実践 (5) 運動プログラムの実践③	
	第14回	運動実践 (6) 運動プログラムの実践④	
	第15回	運動実践の評価	
授業概要	フィットネストレーニングを行う。 初回のガイダンスにおいて受講者数を決定し、それを踏まえて実際の授業方法を指示する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	体調に留意するとともに、実施運動の特性や歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。 日頃よりスポーツや健康に関連する情報にアンテナを張ること。		
テキスト	運動に適した服装、屋外種目は運動用シューズ、屋内種目は体育館用シューズを必ず着用すること。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	心身ともに健康で文化的な生活を営むために運動は大切です。運動実践を通して現在や未来の健康を考えてみましょう。		
評価方法	授業参加度（主体的・積極的）60%、運動実践への取り組みや課題40%		
参考文献			

備考	1) 2年生ですすでにスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できない。また、2024年度前期のスポーツ実技の履修は1単位のみとする（例えば、スポーツ実技一と三を同時に履修することはできない）。 2) 履修者の上限は60名とする。上限を超えた場合は抽選を行う（2年生でスポーツ実技未履修の学生は優先する）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	<p>有酸素運動や筋力トレーニング等を実践し、その基礎的な技術の習得、運動特性の理解を図ることで、生涯にわたり身体運動に親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。</p> <p>1) 実施運動の運動特性を理解することができる。</p> <p>2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施運動を実践することができる。</p> <p>3) 自身の技術や体力などに応じた運動プログラムを作成し、実践することができる。</p>		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	体力・運動能力の測定①	
	第3回	体力・運動能力の測定②	
	第4回	ウォーキング、ジョギング	
	第5回	ダンス①	
	第6回	ダンス②	
	第7回	筋力トレーニング (1) 自重トレーニング	
	第8回	筋力トレーニング (2) ウェイトトレーニング	
	第9回	運動実践 (1) 運動プログラムの作成	
	第10回	運動実践 (2) 運動プログラムの実践①	
	第11回	運動実践 (3) 運動プログラムの実践②	
	第12回	運動実践 (4) 運動プログラムの改善	
	第13回	運動実践 (5) 運動プログラムの実践③	
	第14回	運動実践 (6) 運動プログラムの実践④	
	第15回	運動実践の評価	
授業概要	<p>フィットネストレーニングを行う。</p> <p>初回のガイダンスにおいて受講者数を決定し、それを踏まえて実際の授業方法を指示する。</p>		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	<p>体調に留意するとともに、実施運動の特性や歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。</p> <p>日頃よりスポーツや健康に関連する情報にアンテナを張ること。</p>		
テキスト	<p>運動に適した服装、屋外種目は運動用シューズ、屋内種目は体育館用シューズを必ず着用すること。</p>		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>心身ともに健康で文化的な生活を営むために運動は大切です。運動実践を通して現在や未来の健康を考えてみましょう。</p>		
評価方法	<p>授業参加度（主体的・積極的）60%、運動実践への取り組みや課題40%</p>		
参考文献			

備考	1) 2年生ですすでにスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できない。また、2024年度後期のスポーツ実技の履修は1単位のみとする（例えば、スポーツ実技二と四を同時に履修することはできない）。 2) 履修者の上限は60名とする。上限を超えた場合は抽選を行う（2年生でスポーツ実技未履修の学生は優先する）。

講義科目名称：スポーツ実技九（60690）

授業コード：60690

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	<p>自然の中でスポーツを実践し、その基礎的な技術の習得、運動特性の理解を図ることで、生涯にわたり身体運動に親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。</p> <p>1) 実施種目の運動特性を理解することができる。</p> <p>2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施種目を実践することができる。</p> <p>3) 個々の技術や体力に応じて、仲間と協同して実施種目を実践することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 事前指導 (1) 山形の自然について</p> <p>第2回 事前指導 (2) アウトドアスポーツの基本</p> <p>第3回 カヌー①</p> <p>第4回 カヌー②</p> <p>第5回 カヌー③</p> <p>第6回 月山登山①</p> <p>第7回 月山登山②</p> <p>第8回 月山登山③</p> <p>第9回 月山登山④</p> <p>第10回 月山登山⑤</p> <p>第11回 月山登山⑥</p> <p>第12回 フィッシング①</p> <p>第13回 フィッシング②</p> <p>第14回 フィッシング③</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	<p>カヌー、登山等の自然の中でのスポーツを行う。</p> <p>事前・事後指導ならびに二泊三日の西川町月山での宿泊形式（コテージ）で行う。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>体調に留意するとともに、実施運動の特性や歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。</p> <p>日頃よりスポーツに関連する情報にアンテナを張ること。</p>
テキスト	<p>必要な物品等はガイドンスで指示する。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>自然の中でスポーツを行う魅力を体感してもらいたいです。</p>
評価方法	<p>授業参加度（主体的・積極的）60%、課題40%</p>
参考文献	
備考	<p>実習費用は25,000円前後（ガイドンスまでには確定）。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	<p>スノースポーツを実践し、その基礎的な技術の習得、運動特性の理解を図ることで、生涯にわたり身体運動に親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。</p> <p>1) 実施種目の運動特性を理解することができる。</p> <p>2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施種目を実践することができる。</p> <p>3) 個々の技術や体力に応じて、仲間と協同して実施種目を実践することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 事前指導 (1) 山形の自然について</p> <p>第2回 事前指導 (2) アウトドアスポーツの基本</p> <p>第3回 スノーシュートレッキング①</p> <p>第4回 スノーシュートレッキング②</p> <p>第5回 スノーシュートレッキング③</p> <p>第6回 クロスカントリースキー①</p> <p>第7回 クロスカントリースキー②</p> <p>第8回 クロスカントリースキー③</p> <p>第9回 クロスカントリースキー④</p> <p>第10回 雪板①</p> <p>第11回 雪板②</p> <p>第12回 雪板③</p> <p>第13回 スノーモービル①</p> <p>第14回 スノーモービル②</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	スノーシュー、スキー等のスノースポーツを行う。 事前・事後指導ならびに二泊三日の西川町月山での宿泊形式（コテージ）で行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	体調に留意するとともに、実施運動の特性や歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。 日頃よりスポーツに関連する情報にアンテナを張ること。
テキスト	必要な物品等はガイダンスで指示する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自然の中でスポーツを行う魅力を体感してもらいたいです。
評価方法	授業参加度（主体的・積極的）60%、課題40%
参考文献	
備考	実習費用は30,000円前後（ガイダンスまでには確定）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択・教職選択必修
担当教員			
加藤 守匡			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の健康管理を行なう上で必要となる知識や健康づくりの関する様々な情報について学習する。</li> <li>・自分の健康管理を行う手法を学習する。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 健康づくりに関する各種取り組みの紹介</p> <p>第2回 自分自身の日常運動量及び体力について</p> <p>第3回 日頃の健康状態のセルフチェック法</p> <p>第4回 メンタルフィットネス</p> <p>第5回 健康と体力</p> <p>第6回 現代の学生生活と健康</p> <p>第7回 加齢と健康について</p> <p>第8回 まとめ</p>
授業概要	健康のためにどのようなことを実践していますか確認してもらい、健康に生きて行くためには、日常生活でどのような点に注意を置き、どのような生活スタイルを身につけたらよいかについて資料等を通して学習していく。
実務経験及び授業の内容	自治体での健康推進計画(米沢市、長井市)や介護保険運営協議会(米沢市)、認知症施策推進行動計画(山形県)、様々な自治体での運動教室やスポーツ指導、山形県スポーツ医科学推進会議委員、山形県トレーナー協会理事などでの経験を生かし健康理論の授業を行う。
時間外学習	授業を踏まえて配布した資料等を今一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理すること。
テキスト	資料を適宜配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	
評価方法	期末レポート課題：50%、授業への参加度(理由、報告のない欠席、途中入退室等)：50%で評価します。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>現代社会におけるスポーツの基礎的な知識や能力の習得を図り、これからのスポーツを考えることができるようになることを目指す。到達目標は以下の三点である。</p> <p>1) スポーツと政治、経済、社会等との関係性を理解することができる。</p> <p>2) 現代社会におけるスポーツの現状と課題を理解し、それらを説明することができる。</p> <p>3) 現代社会におけるスポーツの課題に対する自らの意見を述べるすることができる。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 スポーツとは何か</p> <p>第3回 近代スポーツの成立</p> <p>第4回 近代スポーツの伝播</p> <p>第5回 近代オリンピックの誕生</p> <p>第6回 メディア化するスポーツ</p> <p>第7回 消費文化としてのスポーツ</p> <p>第8回 スポーツと政治・権力</p> <p>第9回 スポーツとジェンダー</p> <p>第10回 スポーツと教育</p> <p>第11回 スポーツと芸術</p> <p>第12回 スポーツをめぐる社会問題 (1) 暴力</p> <p>第13回 スポーツをめぐる社会問題 (2) ドーピング</p> <p>第14回 スポーツとテクノロジー</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	現代社会におけるスポーツの現状と課題について具体的な事例を採り上げ議論する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業の中で興味を持ったことに関して自分なりに調べること。 日頃よりスポーツに関連する情報にアンテナを張ること。
テキスト	資料を配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日常生活には多くのスポーツに溢れています。スポーツに関連する情報に関心を持ってみてください。新たなスポーツの側面を垣間見ることができるかもしれません。
評価方法	授業内課題80%、最終課題20%
参考文献	井上俊・菊幸一編（2020）よくわかるスポーツ文化論[改訂版]．ミネルヴァ書房。
備考	